「戦国スピリッツ」

○登場人物

真田幸村
徳川家康
後藤又兵衛
明石全登
徳川秀忠
本多正信
土井利勝
服部半蔵
伊達政宗
猿飛佐助
霧隠才蔵
足軽１（井伏孫四郎時利）
足軽２（益田平蔵忠長）
足軽３（木村越前守義次）

一六一五年・茶臼山

上手から黒装束の服部半蔵が駆けこんでくる。
半蔵、手裏剣を交わす。
下手から、猿飛佐助、霧隠才蔵が現れる。
佐助、才蔵、半蔵に斬りかかる。
半蔵、二人の刀を、飛びよける。

半蔵　きさまらの相手をしている暇はない！

半蔵、下手に駆け去る。
佐助、才蔵、半蔵のあとを追って下手に去る。
東軍、西軍の兵士たちが、舞台になだれ込んでくる。
両軍の激しい戦い。
武将たちが去ると、後ろから大将らしき男が現れる。（上手）
大将の名は徳川家康。
家康、刀を抜き、一人の兵士を斬り伏せるが、残った兵士にじりじりと追い詰められる。

そのとき半蔵が、飛びこんできて兵士を背後から切り捨てる。

半蔵　大殿、これはいったいどういうことじゃ！

家康　（笑って）ははっ、半蔵、わしは久しぶりに人を斬った。

半蔵　喜んでいる場合ではございませぬ！ここはどこもかしこも敵だらけじゃ！！

新たな兵士が半蔵に斬り込んでくる。（上手）

半蔵、一瞬で斬り捨てる。

半蔵　ここはひとまず退却を！

家康　ならぬ。わしはあやつに会うまでは、ここを引かん！

半蔵　何を寝ぼけたことを言っておられる。あやつは、大殿を殺すつもりじゃ。

家康　あの男なら、わしは斬られてもかまわん。

半蔵　殿はよくても、わしはご免じゃ。殿を殺されては、亡き父に申し訳が立たぬ。

家康　わしは動かんぞ。

半蔵　殿！

一際派手な出で立ちをした男が、半蔵の背後を駆け抜ける。（上手）半蔵、倒れる。

半蔵　き、きさま！

家康と男、対峙する。

幸村　よぉ！家康！

家康　やっと、来おったか。

幸村　ずいぶん探したよ。

家康　派手にやりおって。じっとしておればよいものを。

幸村　俺は、じっとしてるのは嫌いなんだ。

家康　いま降伏すれば、命は助ける。ここで無駄死にするな。

幸村　命乞いをするつもりはない！

家康、幸村、刀を交える。

家康　やめろ、幸村！

幸村　やめるわけねえだろ。

家康　すぐにわしの援軍が来る。

幸村　おめえが死ねば、この戦は終わりだ！
家康　頼む、幸村。わしは、お前を失いたくない。
幸村　俺は、幸村。真田幸村だ！
家康　まだ、信じぬのか！

幸村、渾身の力で家康の刀を払う。
家康、倒れる。
秀忠、鉄砲を持って現れる。（下手）

秀忠　父上！ご無事でございますか！
家康　秀忠、撃ってはならぬ。幸村は生け捕りにいたせ。
秀忠　この戦、負けるわけにはまいりませぬ。
家康　撃つな。撃ったら、きさま、首をはねるぞ。

秀忠、鉄砲を構える。

秀忠　父上の子は、この秀忠でござる。

幸村、刀を振り上げて、家康を斬ろうとする。
鉄砲の音がこだまする。
暗転。

駿河の国・駿府城

駿府城。
家康、刀を睨みつけている。
本多正信、下手からやってくる。

正信　殿。
家康　……。
正信　殿。
家康　……。
正信　殿！
家康　なんじゃ？
正信　その刀は？
家康　何やら胸騒ぎがして、気休めに眺めていたのじゃ。
正信　一大事でござる。
家康　一大事？

正信　お耳を拝借（はいしゃく）

正信、家康に何やら耳打ちする。

家康　なに。大坂方が動き出したと。城に食料を運び込み、戦の準備を進めている。

正信　（耳打ちする）

家康　豊臣は、西国の大名に援軍を求めている。他に十万の浪人が大坂城へ向かっている。

正信　以上でござる。

家康　以上でござる。

正信　殿！

家康　なんじゃ？

正信　そのまま口走られては、耳打ちする意味がござらん。

家康　すぐに知れ渡ることじゃ。隠すこともあるまい。

正信　殿、殿は将軍職を退（しりぞ）いたとはいえ、元将軍徳川家康公じゃ。用心してもらわねば困る。

家康　そういうおぬしこそ、毎晩のように寝小便を漏らしているそうじゃないか。本多正信といえば、徳川随一（ずいいち）の切れ者であろう。小便だけは我慢いたせ。

正信　（焦る）な、なぜそれを知っておるのです！？

家康　城の天守閣から、布団を干しているともっぱらの噂じゃ。

正信　お、お許しくださりませ。

家康　許す。寝小便で切腹など申し付けぬから、安心いたせ。

正信　（平伏して）ははあ！

家康　ところで、正信。豊臣が動き出したというのは、本当か？

正信　江戸からの報（しら）せゆえ、間違いございませぬ。

家康　そうか。やつらめ、ついに動いたか。

正信　倒すなら、我らの目の黒いうちにと思っておりましたが、チャンス到来でござる。

家康　やはり、火種はあのくそばばあか？

正信　そのようでございます。

家康　淀君は秀吉の妻だっただけにプライドが高い。そこに付け込めば、いつか必ずボロを出すと踏んでいたが。

正信　そのボロを出しましたな。

家康　淀君が動けば、豊臣が動く。息子の秀頼はマザコンで有名じゃ。母の命令には歯向かえまい。

正信　淀君、整形疑惑。やはり、あれが効きましたな。

家康　ポルトガルの宣教師、ルイスフロイスとのあいびき疑惑もなかなかの名案であった。

正信　駄目押しは、先日、流した隠し子のうわさ。淀君は、怒りに任せて、ついに幕府と戦う覚悟を決めたよし。

家康　（あからさまに）まったく、おぬしもワルよのう。

正信　そういうご隠居さまも。

家康　思えば、長い道のりであった。幼少の頃より、今川家で人質として育てられ、三河の犬ちくしょうといつも罵られていた。今川殿が死に、やっと解放されたかと思えば、次は織田信長。さんざんこき使われて、わしは多くの家臣を失った。こうなったら、信長め、討ち果たしてやる、と思った矢先に本能寺。ほんの少しの差で、秀吉が天下を取った。しかし、その秀吉も死んだ。関が原で西軍を破り、わしは征夷大将軍。幕府まで開いて、いまは悠々自適の生活じゃ。残るは、あの大坂城と、秀吉の倅（せがれ）だけ。わしは、生きておるうちに何としても討ち果たす。そして幕府を今以上に強固なものにするのじゃ。

正信　豊臣の裏切りは明らか。外様の者たちも、これで文句は言いますまい。

家康　急ぎ、各地の大名に出陣の触れを出せ。

正信　はっ。

家康　わしは、これより江戸へ向かう。

家康、正信、下手に退場。

信濃の国・木曽境

夕闇。月の明かり。
下手から、笠をかぶった二人の侍が歩いてくる。
上手から、現れる幸村。侍たちとすれ違う。
一人の侍が、背後から幸村に声をかける。

佐助　旅の人。旅の人。

幸村　ん？

佐助　実は、ちぃーと道に迷いましてな。京へ行きたいのじゃが、道を教えていただきたい。

幸村　京か。京ならば……。

佐助　ここに地図がござる。この地図で教えていただきたい。

佐助、懐から地図を出す。
幸村、地図を覗き込む。

幸村　うーん、暗くてよく見えねえよ。

佐助　よく見てくだされ。よく。

幸村、地図に集中する。
佐助、その隙に幸村の刀を奪う。

佐助　もーらった！！
幸村　おっ！？
佐助　ひっかかったな。この馬鹿め。

佐助、才蔵、笠を投げ捨てる。

才蔵　どうだ。その刀、高く売れそうか？
佐助　このやろう。若いくせになかなかいい刀を持ってやがる。
才蔵　ならば、金も持っているに違いない。
佐助　やいっ、お侍。死にたくなかったら、おとなしく金を出せ。
幸村　お前ら、何だ？
佐助・才蔵　（堂々と）盗人（ぬすっと）だよ。
幸村　盗人？
佐助　俺は気が短けえんだ。早いとこ、金を出せ。
幸村　金なんか持ってねえよ。
佐助　ウソつくんじゃねえ。
幸村　ウソじゃねえよ。俺はいままで山ん中で修行してたんだ。
佐助　そうか。だったら、服を脱げ。ほんとにないか確かめる。
幸村　しつこいやつだな。
才蔵　抵抗するなら、斬る。その弱腰では何もできまい。
幸村　刀だったら、ここにある。

幸村、背中の袋から刀を取り出す。

幸村　じゃんじゃかじゃんじゃんじゃーん！
佐助　げっ。
幸村　俺さあ、ちょっと前から二刀流。
佐助　ちょっと前！？
幸村　宮本武蔵に教わったんだ。
佐助　その刀もこっちによこせ！
幸村　この刀はやるわけにはいかねえな。
佐助　だったら、力づくで奪ってやる！

佐助、幸村に斬りかかる。
応戦する幸村。

佐助　おぬし、何者だ！
幸村　そっちこそ、けっこうやるなあ。

才蔵も戦いに加わる。
激しく戦う三人。

幸村　（刀を受けるたびに）おおっ！ おっと！ そう来るか！
才蔵　佐助、こやつ、ただものではない！

佐助、刀を飛ばされ、みね打ちされて、倒れる。
才蔵、幸村に突っ込んでいくが、同じようにみね打ちされて倒れる。
幸村、倒れた二人の髪をつかんで、顔を上げさせる。

幸村　お前ら、名は！
佐助　猿飛佐助（さるとびさすけ）！
才蔵　霧隠才蔵（きりがくれさいぞう）！
幸村　俺は幸村。真田幸村だ。覚えとけ。

幸村、二人から手を離し、刀を鞘に収める。

才蔵　おぬし、我らを斬らぬのか？
幸村　ああ、斬らない。
佐助　（手足をばたばたさせながら）俺は、こんな恥をかくのは、はじめてだ！斬れ！斬れ！斬れ！
幸村　やめとく。気が乗らねえ。
佐助　情けをかけるな。ヘドが出る。
幸村　情けじゃねえよ。俺あ、強い奴が好きだ。斬っちまったら、二度と戦えなくなる。
佐助　……。
幸村　じゃあな。ちゃんと腕磨けよ。

幸村、取られた刀を拾って、腰に差す。

才蔵　佐助、こいつにしよう！ なあ、佐助、聞いておるか！

佐助、急に立ち上がって、幸村の前に正座する。

佐助　幸村殿、この俺を家臣にしてくれ！
幸村　はあ！？

才蔵　あっ、佐助。出し抜けとは、汚いぞ。

才蔵、幸村の前に来て正座する。

才蔵　それがしも、家臣に加えてくだされ。

幸村　何言ってんだよ。お前ら。

才蔵　われらは、仕える主君なく、いたずらに身をもてあましている者でござる。こうして山賊の真似をしていたのは、真の武士に出会うため。その武士にようやく会えた。

佐助、大声で泣き始める。

幸村　なんで、泣くんだよ。

才蔵　幸村殿、お供させていただきます。

幸村　だめ。

佐助、ピタッと泣き止む。

才蔵　なぜじゃ！われらは見返りを求めているわけではない。飯は自分たちで食う。家臣にしてくだされ。

幸村　俺は、これから大坂に行って仕官するんだ。豊臣に雇ってもらう。いいことなんてちっともねえよ。

才蔵　ならば、我らも大坂へ行く。

幸村　勝手にしろ。

幸村、さっさと行ってしまう。（下手）

才蔵　どうする、佐助。

佐助　（顔を上げ）俺は決めた。あいつに命を賭ける。

才蔵、深くうなずく。

二人、幸村のあとを追って去る。（下手）

江戸城・大広間

徳川家康、足早に入ってくる。（上手）

家康　（大声で）秀忠！秀忠！

秀忠側近、土井利勝、そそくさと現れる。（下手）

利勝　その声は、大殿様！
家康　おお、そなたはたしか……。
利勝　土井利勝でござる。
家康　そうじゃ、利勝じゃ、利勝。最近、江戸にくることがないから、すっかり忘れていた。
利勝　それは、あんまりでござる。
家康　許せ、許せ、冗談じゃ。ほんの冗談。なっ、徳光。
利勝　利勝でございます。
家康　わかった。もう忘れぬ。
利勝　（意地になって）土井利勝でございます！
家康　くどいっ！秀忠をここへ呼べ。
利勝　秀忠さまでございますか……。
家康　どうした。いないのか？
利勝　いえ、おられます。
家康　ならば、すぐに呼んでくれ。

利勝、立ち上がり、あっちへ行ったり、こっちへ行ったり何やら悩んでいる。
ポーズ！！

家康　利勝！！何をしておる！？
利勝　はっ、お呼びしたいのは、やまやまなれど、今はまだ昼時（ひるどき）。夕刻（ゆうこく）までお待ち願えませぬか？
家康　なぜ、そこまで待たねばならんのだ。
利勝　実は・・・
家康　実は？
利勝　秀忠さまは、まだ寝ておられます。
家康　なんだと！
利勝　最近の秀忠さまは、夜起きて、昼寝るのが習慣となっております。
家康　秀忠は、いつから夜行性になった。そのような話は聞いておらん。
利勝　殿が理由は伏せよと申されるので。
家康　わしに隠し事など、けしからん！いったい何を隠しておる。秀忠は将軍なれど、徳川を取り仕切っておるのは、このわしじゃ。勝手な真似は許さんぞ。
利勝　お聞きにならないほうが、よろしいかと……。
家康　なぜじゃ？
利勝　我ながら、情けなくなります。

家康　落ち込むか？
利勝　落ち込みます。
家康　ガクーンと来るか？
利勝　ガクーンと来ます。
家康　申せ。わしは、多少のことでは驚かぬ。
利勝　大殿さまが、そうおっしゃるなら……。

利勝、家康にひそひそと何かを話し出す。（照明が暗くなる）
そのとき背後からもぞもぞと這いつくばる人影が見える。（下手）
この人影こそ、徳川二代将軍、徳川秀忠。
秀忠、ひどく疲れている様子で上座にたどり着くと、そのままだらしなく突っ伏す。

家康　（照明戻る）そんなに、ひどいのか？
利勝　はっ、夜もろくに寝られぬご様子で。
家康　医者は何と言っておる？
利勝　このように多くの花粉に犯された例はないと……。
家康　花粉とは春に飛ぶものだろう。
利勝　それが、秋に飛ぶ花粉もあるらしいのです。
家康　冬はどうじゃ？冬になれば、よくなるだろう。
利勝　ところがどっこい、冬に花粉を飛ばす木もあるそうで。
家康　それでは、万年花粉症ではないか。
利勝　残念ながら。
家康　将軍が、鼻水まみれでは、威厳が保てぬ。
利勝　秀忠さまも、その情けないお姿を父上には見せられぬと嘆いておりました。

秀忠、くしゃみをする。
家康、後ろを振り返る。

家康　（呆然として）利勝、ここはどこだ？
利勝　江戸でございます。
家康　この部屋は？
利勝　江戸城大広間。
家康　では、ここに死体のごとく伸びている物体は！
利勝　まぎれもなく、二代将軍徳川秀忠さま。
家康　利勝、お前に切腹申し渡す。
利勝　なぜ、それがしが！？
家康　お前は秀忠の側近ではないか。なんだ、この体たらくは。天下を治める者の姿とはとても思えぬ。

利勝　どうか、切腹だけはお許しを！
家康　ならば、さっさと起こせ。
利勝　はっ！

利勝、秀忠の体を起こす。

秀忠　なんだ・・・なんだ・・・まだ眠い。
利勝　秀忠さま、お父上が参っております。どうか、目を覚ましてくだされ。
秀忠　誰だって？
利勝　お父上でございます。駿府（すんぷ）より参られました。お父上です。
秀忠　驚かそうたってそうはいかないよ。わしは眠い。寝る。

家康、扇子で秀忠の頭をひっぱたく。

家康　起きろ！秀忠！
秀忠　（見上げて）……。
家康　（プルプル震えながら）きさま……。
秀忠　（やっと気付いて）ち、父上……。
家康　この一大事に、眠りこけているとは、大した奴。
秀忠　利勝、ティッシュ……。
利勝　はっ！

家康、また秀忠をひっぱたく。

家康　たわけ者！鼻を拭いている場合ではない。きさまがそうやって止めどなく鼻水を垂らしている間にも、敵は戦の準備を進めているのだぞ。しっかり、いたせ。
秀忠　しかし、父上、こればっかりは……。
家康　秀忠、お前に一つ聞く。お前にとって大事なのは徳川か。それともティッシュか？
秀忠　（くしゃみ）てぃっしゅ！
家康　死ね！

家康、秀忠の首をしめる。

秀忠　（あがきながら）誤解じゃ、父上。いまのは、くしゃみが・・・
家康　将軍ともあろうものが、家よりもティッシュを重んじるとは、勘弁ならん！
秀忠　利勝、行け！早く行け！出陣じゃ！
家康　利勝、急げ。わしは戦の準備が整うまで、この首を締め続ける。

利勝　（手を合わせ）なんまいだぶ！

利勝、駆け出て行く。（下手）

家康　秀忠、おぬしはどこまでわしを怒らせば気がすむのだ。関が原の遅刻といい、こたびの居眠りといい、もう勘弁ならん。

秀忠　苦しい……。

家康　これぐらい我慢いたせ。天下を治める苦しさに比べれば、こんなの何ともない。よいか、将軍というものは、つねに諸国に気を配り、たとえ小さな火種でも大きくならぬうちに潰さねばならん。うかうかしておると、思わぬところから、矢玉（やだま）が飛んでくるぞ。

家康　秀忠、床を何度も叩く。

ネバーギブアップ！ 将軍にギブはない！ オランダ、ポルトガル、エスパーニア！ ネバーギブアップ日本！ 将軍は異国から、この国を守る義務がある！

本多正信、現れる。（下手）

正信　殿！

家康　おお、正信。

正信　何をしておられる？

家康　このとおり、秀忠の首を締めておる。

正純　何のために？

家康　徳川、ひいてはこの国のためじゃ。

正信　おやめくだされ。秀忠様に、もしものことがあったらどうなさる！！

家康　すべては、わしがこやつを甘やかして育てたことに原因がある。子供の頃から、蝶や花の類（たぐい）が好きで、女子がするような遊びばかりしていた。そのせいか、わしの息子の中では、一番気優しく、お人好しじゃ。将軍を決めるとき、おぬしがわしにこう言った。「これからは天下泰平の時代。そういう時代には、猛々しさより、優しさが求められる。よって二代将軍は秀忠様がうってつけ」と。その結果がこれじゃ。

秀忠　……。

家康　天下泰平は、まだ先じゃ。豊臣の金瓢箪（きんびょうたん）の旗が、大坂城にはためいている限り、幕府に春はやってこない。

正信　春になれば、芽吹くお方です。雪解けまで、しばし、お待ちを。

家康　正信、お前、いつからそんなに口がうまくなった？

正信　生まれつきかと存じます。

家康　座布団、二枚。
正信　ありがたき幸せ。

土井利勝、滑り込んでくる。（下手）

利勝　大殿様，戦の準備、万端整えました！
家康　ゲッツ！！（秀忠）
利勝　こんなこともあろうかと、兵を城内に待機させておりました。
家康　（喜んで）さすがじゃ、利勝。お前を秀忠の側につけた甲斐があったというものじゃ。
利勝　めっそうもございませぬ。

家康、秀忠から手を離す。

秀忠　ゲホッ。
家康　秀忠、お前もわしについてまいれ。戦の仕方というものを、たっぷり伝授してやろう。
秀忠　ゲホッ。
家康　出陣じゃ。
一同　は！

家康、足早に出て行く。（下手）
正信、利勝、秀忠を抱き起こして後に続く。（下手）

大坂城・西の丸

二人の武将が（下手）から出てくる。
一人は、槍の名人、後藤又兵衛。
もう一人は、キリシタン大名、明石全登（あかしてるずみ）。
真田幸村、そのあとから出てくる。（下手）

幸村　この俺を雇ってくれ。
又兵衛　だめだ。だめだ。おぬしのように、ただ戦いたいだけの男など、この大坂に入れるわけにはいかん。
幸村　頼む。俺は戦がしたいんだ。
又兵衛　幸村殿。われらは、この一戦に命をかけておる。みな、関が原で徳川に敗れ、徳川の世では生きていけぬ者たちばかりだ。この戦に勝たなければ、一生浪人で過ごさねばならぬ。

幸　村　協力させてくれ。俺は敵を千人斬れる。雇って損はない。
又兵衛　断る。おぬしのように、お遊びで戦をやられては、兵の士気が下がる。
幸　村　この幸村、戦となれば必死に戦う。雇ってくれ。
又兵衛　だーめ！
幸　村　話にならねえ。

幸村、刀をかつぎ、上手に行こうとする。

又兵衛　おぬし、どこへ行く！
幸　村　殿さまに、じかに雇ってもらう。
又兵衛　待て。待て。本丸に勝手に入ることなど許さん。
幸　村　止めても無駄だ。
又兵衛　幸村殿、あまりこの又兵衛を怒らせるとためにならぬぞ。
幸　村　（目が輝く）おっ！
又兵衛　なんじゃ！
幸　村　槍の又兵衛とは、一度、手合わせしたいと思っていた。
又兵衛　どうしても本丸へ行くというのなら、相手になる。

又兵衛、槍を構える。
幸村、刀を抜く。

明　石　やめなされ。
又兵衛　明石殿、ここは又兵衛にお任せあれ。
明　石　無益な殺生はなりませぬ。アーメン。
又兵衛　また、キリストか。
明　石　この明石、主キリストの教えを広げるため、この大坂に入り申した。
ここは身寄りのない浪人が多く集まる。教えを広げるには絶好でござるよ。
幸　村　なんだ。こんなのもいるじゃないか。
又兵衛　勘違いするな。明石殿は徳川のキリスト弾圧に憤りを感じ、全国のキリスト信者を募り、この大坂に入城されたのだ。お前とは違う。
明　石　秀頼様は、布教を認めてくだすった。ありがたいことじゃ。
幸　村　秀頼さまに会ったのか？
明　石　一度だけ会い申した。まれに見る美男子でござるよ。
幸　村　父親には、似なかったわけか。だって、猿だろ。太閤は。
明　石　太閤殿下を猿呼ばわりでござるか。
幸　村　ああ、猿じゃ。猿じゃ。ウッキー！
又兵衛　ばかもの！　淀君さまに聞かれたらどうする！
明　石　せめて、モンキーと言いなされ。遠く異国の地では、猿のことをモンキーと呼ぶそうな。

又兵衛　明石殿まで、そのようなことを！
幸村　明石殿、あんたとは気が合いそうだ。
明石　明石のほかにジョアンという名前もござる。
幸村　ジョアン？
明石　キリシタンになると、新しい名をもらえまする。
幸村　名前が二つになるのか？
明石　この国では明石。海を渡ればジョアンでござる。
幸村　おぬし、海を渡ったことがるのか？
明石　世界は広うござるよ、幸村殿。この国など、米粒ほどの大きさでござる。
幸村　米粒！そんなにでっかいのか、世界ってやつは。
明石　大きいばかりではなく、珍しいものや、美しいものが星の数ほどある。

明石、懐から輝く石を出して、幸村の手に乗せる。
幸村、その石の美しさにみとれている。

幸村　なんじゃあ、これは。きれいな、まっことときれいな石じゃ。俺は、こんなきれいなものは見たことがない。
明石　異国のみやげにもらったものでござる。サファイアなる石でござるよ。
幸村　きれいな青じゃ。まるで海のようじゃ。
明石　それが、世界でござる。

幸村、その石を、じっと見ている。

明石　さっ、返してくだされ。
幸村　（見とれている）
又兵衛　だめじゃ。こやつ、いっておる。
明石　幸村殿！
幸村　明石殿、俺も海を渡れるかなあ。
明石　その気があれば、いつでも行けまする。
幸村　連れて行ってくれるか？
明石　（二度、うなずく）
幸村　この石、俺にくれぬか？
明石　（二度、首を横に振る）
幸村　頼む。明石殿、このとおり。
明石　やめてくだされ、幸村殿。そのように頭を下げられても困る。
幸村　ただとは言わぬ。うーん……うーん……。

幸村、自分が持っている刀に目が行く。
幸村　これじゃ。この刀と交換してくれ。

明石　刀がなくては、戦えませぬぞ。
幸村　もう一本持ってるから心配ない。この刀は、今は亡き、武田信玄さまが作らせた刀じゃ。何人斬っても刃がこぼれぬ。間違いなく名刀じゃ。
明石　それでは、なおさらもらえませぬ。そのような名刀はしかるべき武人の手になくてはならぬ。
幸村　頼む、明石殿。幸村、一生のお願いでござる。
明石　では、こうしましょう。その石、幸村殿にお貸しする。そのかわり、幸村殿が海を渡り、世界へ行く暁には、キリストの教えを学んでいただく。
幸村　名前が二つになるのか？
明石　さよう。
幸村　構わぬ。俺は小さいことは気にしない。
又兵衛　小さくないぞ、それは。
明石　又兵衛殿、お静かに。
又兵衛　明石殿もしたたかじゃな。
明石　あっはっは。
幸村　きれいじゃ……きれいじゃ……。
明石　大事にしなされよ。その石は、この国に一つしかない石でござる。
幸村　この石、命にかえてお守りいたす。
明石　幸村殿が持っているなら、安心じゃ。あっはっは。

そのとき、鉄砲を撃つ音が連続して聞こえる。
幸村、石を懐に入れる。

又兵衛　敵か。
明石　先鋒隊でございましょう。
幸村　あの山の向こうに敵の旗が見える。あいさつがわりに一暴れしてくる。
又兵衛　勝手に城を出てはならん。
幸村　小手調べだ。すぐに戻ってくる。

幸村、刀を抜いて駆け去る。（下手）

明石　又兵衛殿、どうなさる？
又兵衛　あんな男に先を越されては、わしの面子が台無しになる。
明石　深追いはなりませぬぞ。
又兵衛　心配するな。わしも、すぐに戻る。

又兵衛、一目散に駆け出していく。（下手）

明　石　大坂冬の陣、開戦でござる。

鉄砲を撃つ音が、また続けざまに響く。
明石、退場。（下手）

仙台・独眼竜政宗

眼帯をした政宗。短銃を構えて出てくる。（上手）
政宗、ところかまわず撃つ。
そして短銃をくるくると回し、腰に差そうとする。
そのとき短銃が暴発して、政宗、短銃を落とす。
政宗、辺りを見回して、足で引き寄せた後、さっと手で拾う。
音楽止まる。

政　宗　あやうく、恥をかくところであった。

政宗、また短銃を構える。気配に気付き、短銃を横に向ける。

政　宗　何者じゃ。わかっておる。出てまいれ。

半蔵、下手から転がり出てくる。

政　宗　いつから、そこにいた？
半　蔵　つい、さっき。
政　宗　見たのか
半　蔵　いえ。
政　宗　見たんじゃな。
半　蔵　（口に手をあててクスッと笑う）

政宗、短銃を乱射する。
半蔵、慌てて逃げ回る。

半　蔵　いきなり何じゃ！
政　宗　この曲者め。わしのカッチョ悪い姿を見たと知っては生かして置けぬ。
死ね！

政宗、また撃つ。
半蔵、飛びよける。

半蔵　お待ちくだされ！それがしは、家康公隠密（おんみつ）服部半蔵でござる。大殿の命を受け、参上いたしました。
政宗　家康が、このわしに一体、何の用じゃ！
半蔵　軍勢を率いて、大坂に参陣せよとの仰せでござる。
政宗　なぜ、わしが徳川と豊臣の戦に加わらねばならんのだ。
半蔵　政宗殿は戦の名手（めいしゅ）じゃ。
政宗　徳川に手を貸す気はない。
半蔵　家康公はご立腹でござる。
政宗　何じゃと？
半蔵　日頃、格別の扱いで、領土を安堵してやっているのに、かかる徳川の大戦（おおいくさ）を、すっとぼけるとは、恩知らずめ、と。
政宗　（ムカついて）ふん、偉そうに。
半蔵　さらに、こう申されました。この徳川の時代に、いまだ天下を狙い、勝手にエスパニアなどと貿易を行うのは、その片目の穴から、脳みそが溶け出しておるからか。それとも、片目を失って、世の流れさえ見えぬのか、と。
政宗　挑発には乗らぬ。
半蔵　そして最後に、こう申されました。お前が、大事にしていた育毛剤とかつらを預かっている。返して欲しかったら取りに来い。取りに来ぬときは、伊達政宗はハゲ政宗じゃとふれまわるからね、と。
政宗　ばかばかしい。
半蔵　しらを切っても無駄でござる。

半蔵、懐から写真を出す。

半蔵　証拠写真がここに。悲しいかな、丸ハゲですな。

政宗、写真を見て、銃を落とす。

半蔵　徳川は、スキャンダルには、めっぽう強い。

半蔵、カメラを出して、シャッターを切る。

半蔵　色男の政宗殿がハゲと知れれば、伊達家も終わりじゃ。よく考えなされ。さっきのカッチョ悪い姿もバッチリじゃ。

半蔵、逃げ去る。（下手）
政宗、写真を握りつぶして出て行く。（上手）

大坂城・真田丸

猿飛佐助、霧隠才蔵、両手いっぱいに着物やら、武器やら、鎧を抱えて円を描いて走っている。（下手）

佐助　幸村――！ 真田幸村はどこだ――！

才蔵　幸村殿――！ いたら、返事をしてくだされ――！ 才蔵でござる。霧隠才蔵でござる――！

幸村、上手から頭を掻きながら出てくる。

佐助　（走りながら）あっ！ みつけた！

才蔵　（走りながら）おおっ、そこにいるのは幸村殿。

幸村　お前たち、来てたのか？

才蔵　大坂城は広いゆえ、ずっと探しておりました。

まだ、走っている佐助と才蔵。

幸村　お前たち、どうして走ってるんだ？

才蔵　ははっ、われらはこう見えても風のような速さで走っておるのでござる。すぐには止まれぬのじゃ！

佐助　そうじゃあ――！

幸村、刀を足元に伸ばす。

佐助、刀を飛び越えて止まる。

才蔵、佐助と激突して、倒れる。

幸村　大変だな。

才蔵　（息があがっている）なんのこれしき。

佐助　（息があがっている）いい運動だ。

幸村　よく城に入ってこれたな。

才蔵　城壁を越えるぐらいは朝飯前。

佐助　（ふり）まず俺が才蔵を持ち上げて、

才蔵　（ふり）次にそれがしが佐助を引っ張って、

佐助　（飛び降りるふり）二人でてくてくと登ったのち、飛び降りた。

幸村　すごく普通じゃねえか。

佐助　一気には飛び越えられなかった。

幸村　その荷物はなんだ？

佐助　これか。これは戦利品だ。

幸村　戦利品？
佐助　こないだの戦で、徳川の兵がたくさん死んだ。その屍（しかばね）から、かっさらってきたんだ。
幸村　お前ら、まだそんなことしてんのか。
才蔵　豊臣のためでござる。こっちは浪人の寄せ集めで、ろくに武器もない。敵から奪うのが一番でござる。
佐助　さあ、兄者。好きなものを取ってくれ。
幸村　兄者！？
才蔵　これからは、そう呼ばせていただく。二人で決めた。
幸村　勝手に決めるな。
佐助　俺たちは、兄者について行くと決めた。
幸村　俺に家臣はいらない。人の命なんか預かりたくねえし、守られる覚えもない。
佐助　家臣はだめでも兄弟ならいいだろ。義兄弟さ。血はつながっていなくとも心は一つ。
幸村　だめだ。俺は一人で戦う。
佐助　（無視して）さあ、さあ、兄者。これなんてどうじゃ。胸当てにしては、変な形じゃが、なかなか斬新だぞ。
才蔵　佐助、それは胸当てではなく兜ではないか？
佐助　（ブラジャーをかぶって）こうか。
才蔵　ベタだ。ベタギャグだ。ウルトラマンとか言いそうになった。
佐助　シュワッチッ！！
幸村　おいっ、お前ら、俺の話しを聞いてるのか！？
佐助　兄者に一つだけ聞きたいことがある。
幸村　だから、兄者じゃねえって！
佐助　兄者は、どうして徳川と戦うんだ？
幸村　……。
佐助　徳川に恨みでもあるんか？
幸村　ない。
佐助　（首をかしげる）
幸村　……俺は敵が強ければ、強いほど燃える。それだけだ。

大砲を打つ音が、こだまする。（爆発音）

佐助　うわっ、また、飛んできた。
才蔵　（耳をふさいで）最近、この音ばかり。気が狂う。
幸村　どこから飛んでくるんだ？
佐助　ずっと遠くだ。敵の頭を飛び越えて、こっちに飛んでくる。
才蔵　ポルトガルの最新式と聞き申した。
幸村　ポルトガル？

才蔵　海の向こうの武器でござる。
幸村　見たのか？
才蔵　いや、噂を耳にしたまで。
幸村　お前たち、ここを頼む。
佐助　は？
幸村　ちょっと見てくる。
佐助　一人で行くのは危ない。
幸村　俺なら、平気だ。

幸村、走って行ってしまう。（下手）

佐助　（慌てて）あ、兄者！

爆発音が、こだまする。
佐助、才蔵、着物や鎧をかき集めて去る。（下手）

東軍・家康本陣付近

本多正信、上手から小走りに出てくる。

正信　殿―！大殿―！出てきてくだされ！正信でござる。本多正信でござる―！殿―！

下手から、土井利勝が走ってきて、半腰になる。

利勝　正信様！
正信　おお、利勝。どうだ、みつかったか？
利勝　いえ。どこにもおりませぬ。
正信　（イラついて）ええい！殿はいったい、どこへ行かれたのだ！
利勝　何か心当たりは？
正信　大砲じゃ。殿は、あの音が大嫌いなのだ。
利勝　何者かに拉致されたのでは？
正信　ありえぬ。殿には、半蔵がついておる。
利勝　半蔵殿はどちらに？
正信　あやつもいなくなった。殿と一緒じゃ。
利勝　撃つのをやめれば、お戻りになるのでは……
正信　大砲を撃つように命じたのは、殿だ。勝手にやめれば、咎（とが）められる。

利勝　しかし、何かあっては取り返しがつきませぬ。
正信　利勝、よいか。このこと、敵に知られてはならぬ。噂が広まらぬうちに何としても見つけ出せ。
利勝　はっ。
正信　わしは東を。
利勝　それがしは西を。
正信　手分けして、大殿をみつけるのじゃ。
利勝　はっ。

利勝、一礼して下手に走り去る。
正信、上手に走り去る。
半蔵、客席から舞台によじ登る。
続いて、家康もよじ登る。（商人の格好）

家康　うまく行ったのお。
半蔵　（不服そうに）それがしは、どうなっても知りませぬぞ。
家康　心配無用じゃ。
半蔵　だいたい、その格好は何でござる。まるで商人（あきんど）ではありませぬか。
家康　抜け出すには、これが一番じゃ。
半蔵　徳川二十万の総大将とは、とても思えぬ。
家康　半蔵、わしは隠居の身じゃ。刀は重くて疲れる。
半蔵　弱音を吐かれますな。
家康　この戦は長引く。大坂は、猿めが作った巨大な城じゃ。攻めても攻めてもびくともせぬ。こうなったら、我慢比べじゃ。大砲を雨あられと浴びせかけ、敵の気力がなくなるのを待つ。待つのは得意じゃ。
半蔵　大砲は苦手なようで…
家康　あれは、頭に響く。近くにおると気がおかしくなりそうじゃ。
半蔵　これから、どうなさる？
家康　せっかくじゃ。堺の町など見学いたそう。
半蔵　正気でござるか！？
家康　半蔵、わしは久しく庶民の暮らしを見ていない。わしが作ったこの国がどんなものか、この目で確かめたい。
半蔵　戦はどうなさる？
家康　放っておけばよい。
半蔵　（絶句）……。
家康　あの、うるさいやつを撃っておけば大丈夫じゃ。
半蔵　それがし、胃が痛くなってきた。
家康　あっはっは。

半蔵、地面に耳を押し付ける。

家康　どうした？
半蔵　誰か、こっちにやってくる。
家康　敵か？
半蔵　わかりませぬ。
家康　一人か？
半蔵　一人じゃ。
家康　騒ぎになると面倒だ。おぬしは隠れておれ。もしものときは、頼む。
半蔵　御意！

半蔵、上手に飛び去る。
幸村、下手から走ってくる。
そのまま上手に走り抜ける幸村。
が、すぐに戻ってくる。

幸村　おいっ！
家康　（無視する）……。
幸村　おいっ！
家康　なんじゃ？
幸村　ほらっ、玉を撃つ音が聞こえるだろ。俺はこいつが見たいんだ。おめえ、近道知らねえか。
家康　知らん。
幸村　ん！？

幸村、舞台の前に出て、額に手をかざす。

幸村　（感動して）ああ、見える！見えるぞ、ここから。大きな鉄砲だあ。
家康　……。
幸村　おいっ、おめえ、商人か？
家康　わしが商人に見えるか。
幸村　どう、見ても商人だろ。なあ、あの大きな鉄砲は、どこから流れてきたものか、おめえ、知ってるか？
家康　知らん。
幸村　あれはなあ、ポルトガルから流れてきた武器だ。

家康、下手に去りかける足を止める。

家康　違う。あれはオランダから流れてきた武器じゃ。
幸村　いや、ポルトガルだ。俺は、そう聞いた。

家康　オランダじゃ。わしが言っているのだから、間違いない。
幸村　最新式か？
家康　最新式じゃ。
幸村　さすがにくわしいな。おめえ、どこの商人だ？
家康　わしか？
幸村　おめえしかいねえだろ。
家康　……堺じゃ。堺の商人じゃ。
幸村　堺の商人が、どうして山の中をうろついてんだ？
家康　それはの……。
幸村　なんだ？
家康　武器を売りに来たんじゃ。戦は何かと物いりじゃからのう。
幸村　でも、おめえ、何も持ってねえじゃねえか？
家康　全部売れてしまった。
幸村　全部！？
家康　家康は、ドケチで有名じゃが、金を使うときはドカンと使う。
幸村　家康に会ってきたのか？
家康　そりゃあ、毎日、会ってる。
幸村　毎日！？
家康　……冗談じゃ。冗談。
幸村　どんな男だ。家康は。
家康　どんな男と言われても困るのう。
幸村　でかいか？
家康　何がじゃ？
幸村　わかるだろ？
家康　……チンコか。
幸村　バカ。違うよ。チンコじゃねえよ。そんなこと聞いてねえし、聞きたくもねえ。器だよ。男としてでかいかって聞いてんだ？
家康　そんなことを聞かれても、わしにはわからん。
幸村　会ったんだろ、家康に。
家康　あまりに長い付き合いで器が大きいのか小さいのか、よくわからん。
幸村　灯台もとぐらしというやつじゃ。
家康　俺が、おめえだったら、その場で家康をぶった斬ってるだ。
幸村　おぬしのような若輩者に斬られるわしではないわ。
家康　なんで、俺がおめえを斬らなきゃいけねえんだ？
幸村　そうじゃった。わしとしたことが、つい勘違いをした。
家康　山ん中を一人でほっつき歩いてると山賊に襲われるぞ。
幸村　それは、おぬしも同じではないか。
家康　俺は山賊なんかに負けねえよ。刀を振り回すのは得意なんだ。
幸村　おぬし、武士のようじゃが、どこの武士だ？
家康　俺はいま、大坂城で徳川と戦ってる。

家康　ほお、それでは、おぬし豊臣方か？
幸村　ああ、そうだ。
家康　大胆じゃの。一人でのこのこ城を出てくるとは。
幸村　どうしても、あの鉄砲が見たくて、抜け出してきたんだ。
家康　鉄砲ではない。あれは、鬼殺しという武器じゃ。
幸村　そうか。あれは、鬼殺しというのか。
家康　異国の武器は、うるさくてかなわん。
幸村　…そうだ。商人のおめえに見てもらいてえものがある。
家康　なんだ？

幸村、袋から石を取り出して、手のひらにのせる。
輝きを放つ石にしばらく見とれる二人。

家康　（感心して）おおっ、これは何とも美しい。
幸村　サファイアっていう異国の石だ。
家康　まるで海のようじゃ。海のように青い。
幸村　海！おめえもそう思うか！
家康　青い海を石に閉じ込めたに違いない。
幸村　いいことというじゃねえか。
家康　おぬし、この石をどこで手に入れた？
幸村　実は俺のものじゃない。明石殿から借りてるんだ。
家康　（聞き覚えがあり）明石殿……
幸村　キリシタンでな。俺がくれといったら、貸してくれた。
家康　キリストはならぬ！
幸村　なぜ、だめなんだ？
家康　この国で一番偉いのは天皇でもキリストでもなく、将軍じゃ。
幸村　俺には興味のねえ、話しだ。
家康　なぜ、わしにこの石を見せた？
幸村　商人のおめえなら、この石の価値がわかると思ったんだ。
家康　おぬし、異国に興味があるのか？
幸村　ある。俺は一度で言いから、海を渡って遠い国へ行ってみたい。
家康　海にあこがれるのは、山国の武士だ。おぬし、生まれはどこだ？
幸村　……。
家康　なぜ、答えぬ？
幸村　……覚えてねえんだ。
家康　おぬし、生まれた国がわからんのか？
幸村　そうだ。
家康　捨て子か？
幸村　ああ、捨て子みてえなもんだ。

幸村、じっと石を見つめる。
家康、幸村の横顔を眺める。

家康　似ておる。
幸村　何がだ？
家康　わしの知り合いに、おぬしとよく似ている者がいる。
幸村　世の中には、影武者って仕事もあるからな。一人や二人、似ているやつがいても、おかしくねえや。
家康　おぬし、名は何と言う？
幸村　俺か。俺は真田幸村だ。
家康　（驚いて）幸村だと！！
幸村　なんだ？おめえ、俺のこと知ってるのか？
家康　知らん！わしは知らん！

半蔵、幸村の背後に現れて、刀を振り上げる。（上手）
家康、扇子を振って、合図を送る。
半蔵、刀をしまい、立ち去る。（上手）

幸村　どうした？
家康　いや、虫を払った。冬だというのに季節はずれの虫じゃ。
幸村　おめえ、名は？
家康　わしの名など聞いてどうする？
幸村　こっちも名乗ったんだ。そっちも名乗れ。
家康　……。
幸村　名乗れよ。
家康　そう急かすな。いま、思い出す。
幸村　おめえ、自分の名前がわからねえのか！？
家康　どこで生まれたか、わからんおぬしに言われたくない！
幸村　……。
家康　ああ、思い出した。やす吉じゃ。やす屋のやす吉。年をとるとこれだから困る。
幸村　やす吉。
家康　なんじゃ？
幸村　年はとりたくねえもんだな。
家康　わしは、これでも、あっちのほうはまいだまだいけるぞ。
幸村　また、下ネタか。
家康　開け！ポッキンキン！
幸村　商人が調子に乗りやがって。
家康　わしはただの商人ではない。わしは……天下の……天下の……。
幸村　なんだ？

家康　（肩を落として）商人じゃ。
幸村　そのままじゃねえか！
家康　やかましい！ おぬし、商人をばかにすると、あとで痛い目に会うぞ。
幸村　刀だったら相手になるぜ。
家康　腕に自信があるのか？
幸村　ああ、俺はいままで、がむしゃらに刀を振るってきた。
家康　そんな男に戦いを挑む気はない。
幸村　じゃあ、俺とおめえはこれっきりだ。

幸村、走り去る。（下手）

家康　（ため息をつく）ふう……。

半蔵、再び出てくる。（上手）

半蔵　納得いきませぬ。
家康　なんじゃ？
半蔵　あの男は敵でござるぞ。簡単に討ち取れたものを…
家康　似ておる。
半蔵　は？
家康　似ておるのじゃ、信康に。
半蔵　信康様……。
家康　うりふたつじゃ。

半蔵、退場する。（上手）

三方ヶ原の合戦（回想）

赤く染まる舞台。（危機迫る雰囲気の曲）
本多正信が刀を持って駆け込んでくる。（下手奥）

正信　殿――！ もうだめじゃ、味方は総崩れじゃ。
家康　退くな、正信！
正信　ここは危険でござる。一刻も早く城へ。
家康　黙れ。武田ごときに負けるわしではないわ。
正信　退いてくだされ。これでは、皆殺しにされますぞ。
家康　わしはいままで戦で負けたことは一度もない。
正信　この戦は、負け戦でござる。

家康　刀を貸せ。
正信　殿！！

家康、正信の刀を引き抜く。
そのとき、一人の男が現れる。（上手）

信康　おいっ、くそ親父！こんなところで何やってんだ！
家康　おお、信康。おぬし生きておったか。
信康　城へ戻れ。殺されるぞ。
家康　おぬしは先に戻っておれ。
信康　死ぬつもりか！
家康　この戦は、負けるわけにはいかんのだ。
信康　いままで何のために戦ってきたんだ。何のために耐えてきたんだ。ここで死んだら、全部台無しになっちまう。
家康　ここで負けるようでは、天下など望めぬわ！
信康　城へ戻れ。今すぐに。
家康　指図される覚えはない！
信康　ご免！

信康、刀の柄で家康のみぞおちを打つ。
家康、気を失って、倒れる。

正信　信康様！！
信康　正信、親父を頼む。
正信　信康様も一緒じゃ。
信康　俺は、ここで敵を引きつける。その隙に城へ逃げろ。
正信　その役目、この本多正信が引き受ける。
信康　正信、俺はもう長くない。流れ弾に当たった。
正信　……。
信康　早く行け。手遅れになる。
正信　信康様！
信康　行け！

正信、家康を背負って退場する。（上手）

信康　おーい！聞こえるかー！おーい！聞こえるかー！俺が総大将の徳川家康だ！手柄を取りたい奴はここへ来い！俺が総大将の徳川家康だー！俺が徳川家康だー！

敵が信康に斬りかかってくる。

信康、敵を斬りふせるが、やがて力つき倒れる。
曲、フェードアウト。

大坂城・真田丸

舞台が明るくなる。朝。
幸村、その場に突っ伏して寝ている。
猿飛佐助、霧隠才蔵、あくびをしながら出てくる。（上手）

才蔵　おいっ、佐助。
佐助　あーあ、ひでえ寝相だな。
才蔵　刀を抜いておるぞ。

佐助、才蔵、幸村に近づく。
幸村、寝返りをうつ。

才蔵　（飛び跳ねる）ひっ！
佐助　危ねえ、危ねえ、間一髪だ。
才蔵　寝返りで斬り殺されてはたまらん。
佐助　これからは兄者の近くで、眠るのはよそう。
才蔵　うむ。

才蔵、幸村の刀を鞘におさめる。

佐助　（幸村の肩をたたき）兄者、兄者！
幸村　……。
才蔵　起きないな。
佐助　山を走って疲れたんだろ。いきなり、出ていっちまうんだもんなあ。
才蔵　途中で見失ったのは、われらの不覚だ。
佐助　仕方ねえだろ。武器とか着物とか持ってたんだから。
才蔵　わしはすぐに捨てたぞ。
佐助　悪かったよ。

幸村、目を覚まして体を起こす。

佐助　おっ、起きた。
幸村　……朝か。
佐助　寝ながら刀を抜くなんておっかないぜ。

幸村　ああ、またやっちまったか？
才蔵　この刀、宗光でござるな。
佐助　宗光！？
才蔵　ああ、宗光だ。
佐助　見せてくれ。

佐助、才蔵から刀をもぎとり、刀身を眺める。

佐助　ほんとだ。宗光だ。間違いねえ。
幸村　この刀は、父上からもらったんだ。
佐助　そんなわけねえよ。だって、この刀はよぉ、なあ、才蔵…。
才蔵　う……うむ。
幸村　この刀がどうかしたのか？
佐助　いや、この刀はさ、俺たちが昔、家康から……。
幸村　家康！？

才蔵、佐助の頭をはたく。

佐助　イテッ！何しやがる！
才蔵　すまん、すまん。つい手がすべった。
佐助　はあ！？

後藤又兵衛が入ってくる。（下手）

又兵衛　家康がどうかしたか？
才蔵　これは、又兵衛殿ではありませぬか。
又兵衛　幸村に聞きただしたいことがあって来た。
幸村　なんだ？
又兵衛　実は、おぬしによく似た男が、敵の陣へ走って行くのを見た者がいる。
幸村　それで話しを聞きに来た。
又兵衛　ああ、そいつあ、俺だ。
幸村　何！？
又兵衛　鬼殺しを見に行ったんだ。
幸村　なんだ、その鬼殺しというのは？
又兵衛　大きな鉄砲だ。こっちに飛んでくる玉は鬼殺しが撃った玉だ。
幸村　ほお、それはとっても勉強になる…って、このバカヤロウ！
又兵衛　何が、バカなんだ？
幸村　戦の最中に城を抜け出すやつがあるか！
又兵衛　敵は、ちっとも攻めてこねえじゃねえか。
幸村　城内の者たちは、おぬしが徳川の間者だと噂をしておる。

佐　助　兄者は間者なんかじゃねえ。そんなこと言うやつは、この猿飛佐助様が成敗してやる。
又兵衛　さては、おぬしらも幸村とグルか？
佐助・才蔵　グル！？
又兵衛　この又兵衛の目が節穴だと思ったら大間違いだぞ。

又兵衛、槍を振り回し、幸村、佐助、才蔵、を蹴散らす。
佐助、才蔵、又兵衛の背後に回り、羽交い締めにする。

又兵衛　何をする、きさまら！
才　蔵　幸村殿をお守りするのがわれらの仕事。
又兵衛　離せ。離さぬか！
佐　助　こう見えても俺たちは、忍びの里で修行してたんだ。なめんなよ。
又兵衛　おりゃあ！

佐助、才蔵、弾き飛ばされる。

又兵衛　おぬしら、忍びか。ますます怪しい！

明石全登、出てくる。（下手）

明　石　又兵衛殿、やめなされ。
又兵衛　おおっ、明石殿。おぬしも手伝え。こいつらをこの城から叩き出す。
明　石　味方同士で争っては、敵の思うつぼではありませぬか。
又兵衛　こいつらは味方じゃない。徳川の回し者だ。
明　石　幸村殿、城を出たというのは誠でござるか？
幸　村　ああ、本当だ。
明　石　何のために？
幸　村　鬼殺しを見に行ったんだ。
明　石　鬼殺し？
幸　村　大きな鉄砲だ。一度、見たいと思ってたんだ。
又兵衛　そんな戯れ言（ざれごと）にだまされんぞ、わしは。
明　石　又兵衛殿、お静かに。
又兵衛　明石殿は、人が良すぎる。
明　石　ここは、この明石に免じて槍を引いてくだされ。
又兵衛　いくら、明石殿の頼みでも、こればっかりは見過ごすわけにはいかん。
明　石　この明石が頭を下げてもだめでござるか。
又兵衛　だめだ！
明　石　ならば、仕方ありませぬ。手荒な真似は好みませぬが……

明石、十字架を又兵衛に突きつける。

明石　悪霊退散！
又兵衛　いきなり何だ！？
明石　天に召します我らの神よ。罪深き子羊に、ひとときの眠りを与えたまえ。
又兵衛　眠くならんぞ、ちっとも。
明石　アーメン！（又兵衛のまぶたを指で閉じる）

又兵衛、いきなり倒れる。

幸村　なんだよ、今の。
明石　ゴッドパワーでござる。
幸村　おっかねえな。
明石　幸村殿も試されますか？
幸村　俺は遠慮しておく。
明石　佐助殿、才蔵殿、悪いがお二人で又兵衛殿を陣へ運んでくだされ。
幸村　俺は朝飯にでも行ってくる。
明石　幸村殿は、それがしについてきてくだされ。
幸村　どこへ行くんだ？
明石　皆に頭を下げていただく。
幸村　どうして、俺が頭を下げなきゃいけねえんだ。
明石　戦は、信じられる仲間たちと乗り越えていくもの。戦を続けたいなら、頭を下げてくだされ。
幸村　俺に土下座しろっていうのか？
明石　幸村殿に、土下座は似合いませぬ。事情は、それがしから話しますゆえ、そのあとでちょこっと頭をさげてくだされ。
幸村　……。
明石　よろしいか？
幸村　仕方ねえ。戦うためだ。
明石　では、ともに参りましょう。

幸村、明石に連れられて、退場。（下手）

佐助　才蔵、さっき、どうして俺を殴った？
明石　父上からもらった刀が、家康の刀だと知れば、兄者も気分が悪かろう。
佐助　宗光を、なんで兄者が持ってるんだ？
明石　それは、俺にもわからん。

佐助、才蔵、又兵衛を肩に背負って、退場。（上手）

茶臼山・徳川本陣

徳川家康、上手から現れる。
その後から、服部半蔵。
半蔵、両手一杯に、箱やら手提げ袋を持っている。

半蔵　殿、少しは持ってくだされ。
家康　陣はすぐそこじゃ。
半蔵　人を雇って運ばせればよいものを……。
家康　半蔵、武士は質素を重んじなければならぬ。無駄遣いをしちゃいかん。
半蔵　さんざん衝動買いをしておいて、よく言えますなあ。
家康　わしが買ったのは、必要なものばかりじゃ。

本多正信（上手）、徳川秀忠（上手）から迎えにくる。

正信　殿！
家康　おお、正信、達者であったか。
正信　いったい、どこへ行かれたのです？
家康　やぼ用があってな、少し出掛けていた。
正信　やぼ用で、本陣を留守にするとは、気は確かでございますか！
家康　正信……。
正信　なんでござる。
家康　唾が飛んでる。
正信　殿！
家康　やかましい。やかましい。わしは何も考えなしに堺に行ったのではない。
正信　堺！？　堺へ行かれたのですか？
家康　そうじゃ。
正信　あーっ！！　その格好は何でござる。まるで商人ではありませぬか！？
家康　とってつけたように言うね、お前。
正信　お遊びが過ぎますぞ！
家康　秀忠。
秀忠　はっ。
家康　真似しちゃいかん。
秀忠　（くしゃみ）ヘクシュッ！
家康　そうだ。おぬしにいい物を買ってきた。

家康、半蔵が持っている袋から、何か出す。

家康　花粉を防ぐマスクじゃ。それにカシミヤのティッシュ。薬もある。飲みすぎちゃいかん。また眠くなるからのぉ。
秀忠　（受け取り）ヘックシュ！！
家康　それと正信、お前にもある。
正信　それがし、物にはつられませぬ。
家康　これ。オランダ製の紙おむつ。寝小便には効果絶大と思ったが残念じゃ。また、城下の者たちに笑われる日々を送るがよい。
正信　正信、寝小便などいたしませぬ。
家康　隠さずともよい。皆、知っておる。

秀忠、半蔵、顔を伏せる。

正信　……殿。
家康　どうした？
正信　正信、殿のお気使いを無駄にはできませぬ。くだされ。
家康　初めから、素直にもらえ。
正信　はっ。
家康　利勝（としかつ）。土井利勝はどこじゃ。

土井利勝、現れる。下手。

利勝　ご無事で何よりでございます。
家康　おお、利勝、お前にもみやげを買ってきた。おぬしにはこれ。ミッキーマウスのヘアバンド。
利勝　（頭につけられて）……。
家康　よく似合う。
利勝　オホン！ 伊達政宗殿、参っております。

伊達政宗、下手から現れる。

家康　来たか、政宗。
政宗　あいかわらず、アホですな、徳川は。
家康　悪ふざけは、ここまでじゃ。
政宗　このたびは、遠路はるばる、このくそ寒い中をお呼び出しいただき、政宗、感謝の気持ちでいっぱいでござる。
家康　さぞ、くそ寒かったであろうな。こんなに来るのが遅くなって風邪でもひいたかと心配したぞ。
政宗　この政宗、どこの誰かのように年をとっておりませぬゆえ、ピンピンしております。
家康　わしもだ、政宗。どこの誰かが、いらいらさせるから、血が逆流して

政宗　若返った気分じゃ。
家康　頭に血がいって、プッツンいかぬよう祈りまする。
　　おぬしも気をつけよ。プッツンついでに誰かを道連れにするかもしれん。
政宗　冗談がきついですなあ。
家康　冗談じゃ、冗談じゃ。そう言って、何人も地獄に葬ってきた。
政宗　さすがは、家康殿、煮ても焼いても食えませぬ。
家康　それは、おぬしも同じであろう。
政宗　食えぬ者同士、仲良くやりたいものですな。あっはっは。
家康　わっはっは。
政宗　ところで家康殿、冗談ついでにあれを返していただきたい。
家康　あれとは何じゃ。あれとは？
政宗　あれでござる。あれ。
家康　あれか。あれな。あっはっは。
政宗　あれがなくては、この政宗、おちおち眠れませぬ。
家康　そうか。落ちて落ちて眠れぬのか？
政宗　これは、政宗、一本取られました。
家康　そなたにとっては一本も貴重であろう。
政宗　あっはっは。
家康　わっはっは。

政宗、真顔になり家康の胸ぐらをつかむ。

政宗　（真顔で）いいかげんにしろ、てめえ！
家康　この手はなんじゃ、この手は。
政宗　（ハッと気付いて）ものの弾みでござる。弾み。
家康　（真顔で）どけよ。
政宗　（押し殺した声）はっ。

政宗、手を離す。

家康　返してやってもよいが、それはおぬしの働き次第じゃ。
政宗　手柄を立てろということか？
家康　そういうことじゃ。
政宗　あのカツラ……。
一同　カツラ！？
政宗　……いや、薬。必ず返せよ。
家康　約束しよう。
政宗　裏切るなよ。

政宗、身を翻して、下手に去る。

家康　さて、政宗の戦ぶり、じっくり見させてもらおう。

家康と家臣たち、上手に去る。
下手（前）から政宗が再び現れる。

政宗　わしは仙台城主、伊達政宗じゃ。手柄が欲しい奴は、わしの首を取りに来い。誰かおらんのか――！

上手から、武士が三人、現れる。（上手）

足軽1　やあやあ、我こそは、井伏孫四郎時利。
足軽2　やあやあ、我こそは、益田平蔵忠長。
足軽3　やあやあ、我こそは、木村越前守義次。

政宗、刀を抜く。

政宗　一人一人は面倒だ。まとめてかかってこい！
三人　いざー！！

政宗、あっというまに三人を斬り捨てる。

政宗　弱い！　弱すぎる！　もっと強い奴はおらんのか――！

真田幸村、上手から飛び込んでくる。
政宗と幸村、幾度か刀を交える。

政宗　おぬし、名は！
幸村　俺は、真田幸村だ。
政宗　なかなかやるな、幸村とやら。わしは、仙台城主、伊達政宗。名前ぐらいは知っておろう。
幸村　あんたが、あの有名な政宗か。
政宗　そうだ。わしがかの有名な政宗だ。
幸村　その目は、どうした。カラスにでも食われたか？
政宗　違う。弟に目ん玉チョップされて、つぶれた。
幸村　弟？
政宗　初めは、おふざけかと思ったが、弟はマジだった。わしの目をつぶして伊達家を乗っ取る魂胆だった。
幸村　で、その弟は？

政宗　殺した。

政宗、幸村と刀を交える。

政宗　母は、息子のわしに毒を盛った。母は、わしより弟が好きだった。

政宗、刀をもう一度、交える。

政宗　親兄弟に裏切られるほど、辛いことはない。それからというもの、わしの髪の毛は、ポロポロと落ち始め……。

幸村　毛？

政宗　（ヒステリックに）言うなあああ！

政宗、力一杯、刀を振る。

幸村、その刀を、かわす。

政宗　お前、今、毛って言ったな。あーあ、知っちゃったな、わしの秘密。そうとわかれば、生かして返すわけにはいかん。

幸村　（意味がわからず）何言ってんだ、お前。

政宗　ハゲ政宗、ハゲ政宗とは言わせぬぞ。わしは、独眼竜政宗じゃ。

政宗、いきなり短銃を構える。

幸村　なんだ、それは？

政宗　鉄砲だ。

幸村　きたねえぞ、てめえ。

政宗　戦にきれいも汚いもない。わしが信じるのは力のみ！

政宗、短銃を撃つ。

幸村、身をひるがえして倒れる。

そのとき、家康が駆け出してくる。（下手）

家康　政宗、待て！

政宗　こんなところに何の用だ？

家康　その男を撃ったのか！？

政宗　これからとどめを差す。邪魔だてするな！

家康　退け！！

政宗　バカを言うな！

家康　このわしが退けと言っておるのだ。退け！

政宗、怒りを押し殺して去る。（下手）
家康、幸村の肩をたたく。

家康　おいっ、幸村！
幸村　（起き上がり）……やす吉じゃねえか。
家康　おお、生きておったか。運のいい奴め。
幸村　耳鳴りがする。
家康　耳をやられたのか？
幸村　（聞こえず）は？
家康　（大きい声で）耳をやられたのか！
幸村　かすっただけだ。

幸村、立ちあがり、耳をほじくる。

幸村　おめえ、どうしてここにいるんだ？
家康　たまたま通りかかった。
幸村　（聞こえず）は？
家康　（大きい声で）たまたま通りかかった！
幸村　怒鳴るな。うるさい！！
家康　耳鳴りは？
幸村　止まった。
家康　そうか。それはよかった。
幸村　俺に何の用だ？
家康　（考えて）……異国の道具を持ってきた。
幸村　異国の道具？
家康　ポルトガルから流れてきたもので、堺で手に入れた。

家康、望遠鏡を出す。

幸村　ただの、のり巻きじゃねえか？
家康　こんな大きなのり巻きがあるわけなかろう。これは望遠鏡というものじゃ。
幸村　望遠鏡？
家康　試してみるか？
幸村　どうやって使うんだ？
家康　ここの両端にガラス玉が、はめこんである。ここから外を眺めるのじゃ。

幸村、望遠鏡を眺める。

幸村　何も見えねえぞ。
家康　逆じゃ。こっちから遠くを眺めてみろ。
幸村　おお、見える。こいつはすげえ。山の頂上がくっきり見える。
家康　この道具で、おぬしの姿をみつけたのじゃ。
幸村　そうだ。こうしちゃいられねえ。俺は政宗とケリをつけねえと。
家康　追いかけても無駄じゃ。政宗は、とっくに退却してしまった。
幸村　何で俺の首を取らなかったんだ？
家康　カツラが落ちたんじゃ、きっと。
幸村　政宗は、カツラなのか？
家康　丸ハゲじゃ。
幸村　商人のおめえが、どうしてそこまで知ってんだ？
家康　それはの…家康から聞いたんじゃ。
幸村　そうか。おめえは家康の取り引き相手だったな。
家康　なぜ、この戦に加わった？
幸村　おもしれえからさ。刀を持って暴れまわるとスカっとする。
家康　それだけか？
幸村　それだけだ。
家康　おぬしに斬られる武士がかわいそうだ。
幸村　家康は、何のために戦をするんだ？
家康　なぜ、わしに聞く？
幸村　おめえとなら、そんな話しをしたことがあるんじゃねえかと思ってよ。
家康　己のためじゃ。
幸村　己のため？
家康　家康は、幼い頃、敵の国で人質として育った。犬になれと言われれば
　　ワンと鳴き、猫になれと言われればミャー、ミャーと鳴いてみせた。
幸村　犬！
家康　ワンワン！
幸村　猫！
家康　ミャー、ミャー。
幸村　どうして家康はミャーミャー鳴いたんだ？
家康　逆らって殺されるのが、恐かったんじゃ。家康はそのとき捨てた武士
　　の誇りを取り戻すために、ずっと戦ってきた。
幸村　天下を取ったじゃねえか。
家康　その天下を磐石のものにしなければ、気がすまぬのであろう。
幸村　家康は、おめえにそこまで話すのか？
家康　長い付き合いじゃ。
幸村　俺は、てっきり民百姓のためとか、きれいごとを言う男だと思ってた。
家康　百姓や国のことを思い始めたのは天下を取ってからじゃ。
幸村　家康が、そう言ったのか？
家康　いや。わしがふと思ったことじゃ。

幸村　商人に似あわねえ、言葉だ。
家康　おぬしが刀を振るう本当の理由はなんだ？
幸村　……。
家康　スカッとしたいだけなら、女を抱けばよいではないか。女なんてやっちまえば、こっちのもんだ。
幸村　問題発言だ！
家康　よしっ、では一緒にあやまろう。
家康・幸村　（客席に向かって）すいません。
幸村　なんで、俺が頭下げなきゃならねえんだ！
家康　わしの問いに答えぬからだ！　お前が悪い！
幸村　戦の最中に女の話しなんかしやがって！
家康　話しのついでに、おぬし徳川の家臣になる気はないか？
幸村　なんで俺が徳川の家臣になるんだよ！
家康　おぬしは剣の腕がたつ。あの政宗と互角の勝負。おぬしにその気があるなら、わしが家康に話しを通してやろう。
幸村　俺は、大坂で戦うって決めたんだ。勝つまで徳川と戦う。
家康　今は徳川の時代だ。北も南も東も西もみーんな徳川だ。豊臣に万に一つも勝ち目はない！
幸村　商人がわかったような口を聞くな！
家康　だから、わしはただの商人ではない。わしは天下の……天下の……天下の……。
幸村　なんだ？
家康　商人じゃ。
幸村　この前と同じじゃねえか。ばかやろう！
家康　ばか、いま、ばかって言ったな。このわしにばかって言ったな。もう許せん！

家康、刀を抜くそぶり。

幸村　刀だったら、ここにあるぞ。
家康　貸せ。
幸村　商人に持たせる刀は持ってねえんだ。
家康　だから、わしは、天下の……天下の……天下の……。
幸村　なんだ？
家康　（肩を落として）商人じゃ。
幸村　三度目だ。三度目。つっこむ気も失せた。
家康　……やはり似ておる。
幸村　は？
家康　おぬしはわしの息子にそっくりじゃ。
幸村　俺は、おめえの息子に似てたのか。

家康　死んだがな。
幸村　死んだ？
家康　自慢の息子でな、ゆくゆくは店を任せるつもりだった。
幸村　……。
家康　もう一度、聞く。おぬし徳川の家臣になる気はないか？
幸村　ない！

幸村、駆け去っていく。（上手）
徳川秀忠が出てくる。（下手）

秀忠　父上、このようなところにいては危のうござる。
家康　おぬしこそ、このようなところに一体何の用じゃ。
秀忠　豊臣から和議の使者が参っております。
家康　はっはっは。やつらめ、ついに根をあげたか。
秀忠　いかがいたしましょうか？
家康　わしに考えがある。ひとまずその使者に会おう。
秀忠　あの、男は？
家康　おぬし、見ていたのか。
秀忠　何やら話し込んでおりましたので。
家康　真田幸村。なかなか見所のある男じゃ。
秀忠　……。
家康　体の具合はどうじゃ？
秀忠　父上にいただいた薬が効き申した。
家康　そうか。それは何よりじゃ。
秀忠　その黒い筒は何でござる？
家康　ああ、これか。異国の、のり巻きじゃ、うまいぞ。
秀忠　そのように大きなのり巻きは見たことがありませぬ。
家康　おぬしにやろう。

家康、秀忠に望遠鏡を渡す。
家康、退場する。（下手）
秀忠、望遠鏡に噛み付く。

秀忠　うむ、これは固すぎる。ガッチャンにあーげよっと！

秀忠、スキップしながら退場。（下手）

大坂城・二の丸

後藤又兵衛、明石全登、スコップを持って登場。（下手）

又兵衛　くっそー！ なんでわしがこんなことをせねばならんのだ！
明　石　淀君様の命令でござる。従うしかありますまい。
又兵衛　納得できぬ。これでは、自分で自分の首を絞めているようなものではないか。
明　石　土木作業は苦手でござるか。
又兵衛　力仕事は得意だ。
明　石　では、休まず頑張りましょう。
又兵衛　明石殿、おぬし、大坂城に危機が迫っておるというのに何も感じぬのか。
明　石　すべては神が与えた試練でござる。
又兵衛　また、キリストか。
明　石　アーメン。主は我らを導いてくださる。
又兵衛　（やけぎみに）アーメン！ アーメン！ アーメン！！ 神は悩めるものにまで、仕打ちをするらしい。
明　石　いずれ光は見えましょう。
又兵衛　こんなことやってられるか。ばからしい！

又兵衛、スコップを叩きつける。
幸村、スコップを振り回して出てくる。（上手）
そのあとから、佐助と才蔵。（佐助、才蔵は小刀）
三人でチャンバラが始まる。

又兵衛　幸村、きさま何をしている！
幸　村　見ればわかるだろ。剣術の稽古だ。
又兵衛　そんなもので稽古をするな！
幸　村　いいぞ、これ。けっこう使える。
又兵衛　やめろおー！

又兵衛、スコップを振り回し、佐助と才蔵を退場させる。（下手）

幸　村　なっ、使えるだろ。
又兵衛　うるさい！ わしはまだ、おぬしを信用したわけではない！
幸　村　まだ、疑ってんのか？
又兵衛　当たり前だ！
明　石　又兵衛殿、その話しはもうやめなされ。

上手から伊達政宗、本多正信、土井利勝、スコップをかついで出てくる。

政宗　しっかり仕事せい。きさまら。
幸村　あっ、おめえは、政宗！
政宗　そういうお前は、幸村！
幸村　また、鉄砲出すんじゃねえだろうな。
政宗　ふんっ、わしもアホではない。とっとと堀を埋めて仙台に帰らせてもらう。
正信　外堀は我らが埋めた。
利勝　こちらは、まだのようですな。
政宗　せっかくだから、力を貸してやる。みんなで仲良く楽しく埋めようや。
又兵衛　断る。二の丸、三の丸は、我らが埋めることになっている。
政宗　豊臣組は腕が悪い。ちんたらちんたら埋めやがって。このままだと、春になって、堀から花が咲く。
明石　大坂の春は、桜が満開できれいでござる。みなで楽しく花見でもいたしますか。
政宗　桜のように、きさまらには散ってもらう。
又兵衛　何！
政宗　和議だか何だか知らぬが、堀が埋まれば、大坂城は裸同然。すっぽんぽんの豊臣を徳川が放っておくわけがない。死ぬんだな、いさぎよく。
利勝　ここで会ったのも何かの縁。みなでダンスでもいたしますか？
幸村　ダンス！？
政宗　ミュージック、スタート！！

キャスト全員登場。ダンス。（約二分三〇秒）
曲が終わると、佐助、才蔵、半蔵、秀忠、退場。

幸村　あっ！　やす吉！
家康　おお！　幸村。会いたかったぞ。
幸村　おめえ、どこからこの城に入ってきたんだ？
家康　豊臣と取り引きの話しがまとまったのじゃ。
幸村　取り引き！？
正信　殿、外堀はすべて埋め申した。残るは二の丸と三の丸でござる。
家康　その調子でじゃんじゃん埋めろ。
正信　はっ。

本多正信、土井利勝、退場（上手）

幸村　殿！？
政宗　おいっ、家康。堀を埋め終わったら、わしは仙台に帰るぞ。

家康　豊臣とは和議を結んだからの。堀が埋まれば帰ってよい。

伊達政宗退場（上手）。

幸村　家康！？

家康　幸村。おぬしも堀を埋めるのじゃ。

幸村　やす吉。これは、何の真似だ？

家康　やす吉。誰じゃ、そいつは。

幸村　おめえの名前だろ。

家康　わしは、そんな男は知らん。

幸村　なんだと！！

又兵衛　幸村、おぬし、家康を知っておるのか？

幸村　こいつは家康なんかじゃねえ。ただの商人だ。

明石　幸村殿、その男、家康でござるぞ。

幸村　えっ！？

家康　おおっ、明石。久しぶりではないか。元気そうで何よりじゃ。

明石　家康殿も、お変わりなく。

家康　まさか、まだその十字架をさげていたとは……おぬしもし懲りぬ奴じゃ。

明石　なぜ、豊臣との和議に応じたのでござる？

家康　淀君と秀頼が命を助けてくれというから、応じたまでよ。二人の命が助かるなら、堀を埋めるくらい安いものだろ。

明石　家康殿がこのまま引き下がるとは思えませぬが……

家康　キリシタンは、信じることが仕事であろう。

幸村　やす吉、どういうことだ？

家康　そういうことじゃ。

幸村　商人だって言っただろ。

家康　わしは、商人ではない。わしは、天下の……。

幸村　商人だろ？

家康　（扇子を開き）徳川家康じゃ。

幸村　……。

又兵衛　幸村、どういうことか話してもらおうか？

幸村　こいつは商人の格好をして、山ん中をうろついてたんだ。

家康　わしは、商人の真似事など、せぬ。

幸村　やす屋のやす吉だって、言っただろ。

家康　人違いではないか？

幸村　なんだと、てめえ！！

家康　もうよいではないか。本当のことを話してしまえ。

又兵衛　本当のこととはなんだ？

家康　幸村には、この城の様子を探らせていたのじゃ。それが、どういうわ

けか、敵に情けをかけおって。
又兵衛　幸村、やはり、お前……。
幸村　違う。俺は、こいつのことは何も知らねえ！
家康　わしは、よく知っておるぞ。大事にしている青い石も見せてもらった。
明石　青い石……。
家康　海のように青く光る石じゃ。
明石　幸村殿、あの石を家康にみせたのでござるか？
幸村　……。

伊達政宗、本多正信、土井利勝、再び戻ってくる。（上手）

正信　殿、二の丸、三の丸、すべて埋めもうした。
利勝　ついでに城壁もぶっ壊しておきました。
家康　ゲッツ！！
政宗　わしは仙台に帰らせてもらう。アイテムを返せ。
家康　よかろう。グッバイ、ハゲ。
政宗　いつか、ぶっ殺す！

伊達政宗、本多正信、土井利勝、退場する。（上手）

又兵衛　明石殿、われらも参るぞ。
明石　しかし、又兵衛殿……。
又兵衛　どんな理由があろうと、幸村が家康に会っていたのは事実だ。噂が広がれば、ともに戦っていたわれらまで疑われるぞ。

又兵衛、足早に去る。（下手）

明石　許されよ。幸村殿……。

明石、去る。（下手）

幸村　俺をだましたのか。
家康　家康だと名乗れば、おぬしは、わしを斬ったであろう。
幸村　当たり前だ。
家康　わしが、嘘をつくのも当たり前だ。
幸村　政宗を退却させたのは、おめえか？
家康　そうじゃ。わしが政宗を退却させた。
幸村　どうして、俺を助けた！？
家康　わしの息子に似ておるからじゃ。
幸村　店を任せるつもりだったんだよな、その息子に。

家康　店ではない。この国を任せるつもりだった。
幸村　ばかにしやがって！！ 俺は、おめえのおかげで、裏切り者にされちまった！
家康　ここで無駄死にするより、よいではないか。
幸村　どういう意味だ？
家康　豊臣には滅んでもらう。
幸村　和議を結んだだろ。
家康　わしが本気で淀君と秀頼の命を救うと思うか。豊臣は幕府にとって脅威じゃ。この大坂に十万の兵士を集める力がある。
幸村　命助けるって約束して皆殺しか。
家康　戦国は正直だけでは生き残れぬ。だまし、だまされ、それでもしぶとく生き残らねばならんのだ。
幸村　おめえは、嘘ばっかりだ！
家康　この世は、きれいごとでは動かせぬ。
幸村　約束は守れ。
家康　だまされるほうが悪い。
幸村　どうして、そこまでやれるんだ？
家康　生き延びることが、大事なのだ。
幸村　また、戦になったら、俺は大坂で戦う。
家康　やめておけ。堀も城壁もない大坂城は、もはや城ではない。豊臣に勝ち目はない。
幸村　逃げて生き延びるくらいなら、死んだほうがマシだ。
家康　死ぬとわかっている戦に首を突っ込むことはあるまい。
幸村　これで、逃げたら、俺は本当の裏切り者だ。
家康　ならば、力づくで味方にするしかあるまい。

半蔵が現れる。（上手）

幸村　何の真似だ？
家康　しばらく、おとなしくしてもらう。
幸村　やれるもんなら、やってみろ。
家康　半蔵！

半蔵、吹き矢を吹く。

半蔵　あれっ？
家康　どうした、半蔵。
半蔵　矢が出ませぬ。
家康　詰まっておるのではないか？
半蔵　そんなはずはありませぬ。毎日、手入れをして…あれっ、あれっ。

家康　どれっ、わしに見せてみよ。
半蔵　（吹く）ふっ！
家康　うぐっ！
半蔵　殿？
家康　……半蔵、きさま、なぜわしを撃った。おぬしを信じてたのに。ずっとずっと信じてたのに…ブルータスお前もか……うぐっ。
半蔵　殿ー！！

家康、倒れる。

幸村　おいっ、冗談だろ？
半蔵　だめじゃ。急所にあたってしまった。助からぬ。
幸村　こんなあっけなく天下人が死んでいいのか？
半蔵　ご臨終じゃ。幸村殿、せめて最後くらい手を合わせてくだされ。

幸村、家康のそばに寄る。

幸村　おいっ、こいつまだ息をしてるぞ。
家康　（手を振って）してない。してない。
幸村　しゃべってるじゃねえか。下手な芝居打ちやがって。
家康　幸村、おぬしに遺言がある。
幸村　おめえの猿芝居につきあってられるか！
家康　大事なことじゃ。半蔵が、おぬしに狙いをつけておる。
幸村　えっ。

半蔵、吹き矢で幸村を撃つ。（吹き矢の音）

幸村　うぐっ。
家康　油断は禁物じゃ。
幸村　家康、てめえ……。
家康　しばらく寝ておれ。悪いようにはせぬ。
幸村　最悪だ…こんなやられ方……。

幸村、その場に倒れる。

家康　うまくいったのお。
半蔵　こんな芝居をせずとも、それがしは一発で仕留めまする。
家康　念には念を入れたまでじゃ。
半蔵　この男になぜ、そこまでこだわるのか、それがしにはわかりませぬ。
家康　この男は、他人とは思えぬのだ。

半蔵、幸村の刀を取り上げる。

半蔵　殿、幸村が持っているこの刀……。
家康　なんじゃ？
半蔵　宗光でござる。

半蔵、刀を家康に渡す。

家康　確かに宗光じゃ。
半蔵　亡き父上も、この刀を探しておりました。
家康　なぜ、こやつが宗光を持っている？
半蔵　さあ。それがしにもわかりませぬ。
家康　（何かに気付く）！！

家康、幸村の着物をはぐ。

家康　この傷……。

舞台、ゆっくりと暗転。
照明が戻ると、佐助と才蔵が座り込んでいる。

佐助　覚えてねえんだよなあ。気がついたら、倒れてた。
才蔵　しびれ薬だ。まだ手がしびれておる。
佐助　どうして俺たちが狙われるんだ。
才蔵　兄者も消えた。
佐助　俺たちと兄者を引き離すのが、狙いか？
才蔵　なんのために？
佐助　わからねえ。
才蔵　兄者が持っていた刀、あれがどうも気にかかる。
佐助　宗光か。
才蔵　あの刀は、我らが昔、徳川からかっぱらおうとした刀だ。その刀をどうして兄者が持っている。
佐助　父上からもらったと言ってたぞ。
才蔵　兄者が嘘をつくとは思えぬが……。
佐助　徳川か……。
才蔵　佐助、江戸へ行こう。
佐助　江戸！？
才蔵　何か手がかりがつかめるかもしれん。
佐助　そうだな。それしかねえ。

佐助、才蔵、去る。（上手）

江戸城・大広間

徳川秀忠、土井利勝、ともに入ってくる。（上手）

秀忠　いったい父上は何を考えておいでなのだ。
利勝　ご機嫌がすぐれぬようで。
秀忠　二十万もの兵を大坂に繰り出しておきながら、敵の和議に応じ、兵を江戸に戻した。大坂城は堀も城壁もなく、裸同然ではないか。そのまま、攻めこめば、豊臣を滅ぼすことができたものを。
利勝　大殿には、何か考えがあるのでは。
秀忠　父上は、わしには何も話してくれぬ。昔から、そうだ。
利勝　大殿にお任せしておけば、間違いありませぬ。
秀忠　わしは何のための将軍だ。父上にかなわぬことはことはわかっているが、これではただのお人形さまではないか。
利勝　大殿の次に、幕府を守るのは秀忠さまでございます。
秀忠　ヘクシュッ！
利勝　もしや、また花粉では！？
秀忠　花粉ではない。また誰かがわしの噂をして笑っておるのじゃ。

土井利勝、秀忠の鼻をティッシュでゴシゴシ拭く。

利勝　噂といえば、真田幸村でございます。
秀忠　幸村か……。
利勝　なんでも信康様にそっくりな顔立ちをしているとか……。
秀忠　父上は、いまでも信康が生きていれば、と嘆かれることがある。腹違いの兄ゆえ、わしは一度も会わなかったが。

徳川家康、扇を仰ぎながら入ってくる。（下手）
本多正信、幸村を連れてやってくる。（下手）
幸村の体には縄が巻かれている。

家康　秀忠。邪魔するぞ。
秀忠　はっ。
家康　どうじゃ、幸村。ここの眺めは最高であろう。江戸の町が一望できる。これが、天下人の醍醐味というものじゃ。
幸村　（ムッとしている）……。

家康　正信、こやつの縄をといてやれ。
正信　何をしでかすかわかりませぬぞ。
家康　ここで暴れても取り押さえられるのがオチじゃ。
正信　本当に、よいのですか？
家康　よい。

本多正信、幸村の縄を解く。

家康　幸村、おぬしにあらかじめ言っておくが、あっちの襖の奥にも、こっちの襖の奥にも、人を伏せてある。
幸村　……。
家康　幸村、おぬしに聞きたいことがある。
幸村　おめえと話す気はねえ。
家康　お前が持っていた刀。あの刀はどこで手に入れた？
幸村　（無視して）……。
家康　牢から出してやったのだ。何か申せ。
幸村　この江戸から出せ。そしたら話してやるよ。
家康　そうか。ならば、真田幸村はかっぱらいじゃ、と江戸中に触れ回る。
幸村　かっぱらい！？
家康　宗光は、わしが持っていた刀だ。
幸村　嘘をつけ。
家康　嘘ではない。わしが、腕利きの刀鍛冶に作らせた。
幸村　宗光は俺の刀だ。
家康　わしの刀だ。
幸村　俺の刀。
家康　なぜ、そう言いきれる？
幸村　父上が俺にくれた刀だ。
家康　いつか自分の生まれた場所がわからぬと言っていたが、それはなぜじゃ？
幸村　そんなことを聞いてどうする？
家康　おぬし、生まれた場所がわからぬのではなく、忘れたのではないか？
幸村　……。
家康　図星か。
幸村　なんで、おめえにそんなことがわかるんだ。
家康　宗光の太刀はわしが信康に与えた刀だ。
幸村　まさか、その信康が俺だって言うんじゃねえだろうな。
家康　その、まさかじゃ。
幸村　死んだって言っただろ。
家康　死んだと思っていた。流れ弾に当たり、力尽きたと。
幸村　……。

家康　おぬし、鉄砲で撃たれたことはないか？
幸村　まともにくらったことはねえ。
家康　撃たれた傷は？
幸村　……ない！
家康　ある。わしは見たのじゃ。おぬしの体には、鉄砲で撃たれた古い傷がある。
幸村　鉄砲傷がある奴は他にもたくさんいる。
家康　宗光の刀。鉄砲の傷。そして、おぬしは信康にうりふたつじゃ。
幸村　ふざけるな！俺は幸村！真田幸村だ！
家康　なぜ、認めようとせぬ。
幸村　信じられるか。そんなばかばかしい話。
家康　おぬしが記憶を失ったのはいつからだ？
幸村　……。
家康　信康は三方が原の合戦でわしの身代わりになった。
幸村　三方が原……。
家康　三方が原の合戦には真田家も加わっていた。

舞台、暗くなる。
幸村にスポット。

秀忠　おぬし、名は？
幸村　……。
正信　どこの生まれだ？
幸村　……。
利勝　一体、何者だ？
幸村　……ここは、どこだ？
秀忠　上田の真田屋敷だ。
幸村　真田？
正信　倒れていたおぬしをここまで運んでやったのだ。何か答えろ。
幸村　……。
利勝　なぜ何も答えぬ。
幸村　……。

幸村、頭を抱え、うずくまる。

家康　まだ思い出せぬのか？
幸村　ああ、だめだ。何も出てこねえ…
家康　ならば、おぬしに名をやろう。
幸村　俺に名を？
家康　幸村。真田幸村。これからは、そう名乗れ。

幸村　真田……幸村……。

照明、もとに戻る。

正信　殿、まさか、この男……。
家康　おぬしは、どう思う？
正信　とても信じられぬ。
幸村　（声を押し殺して）俺を、大坂に戻せ。
家康　ならぬ。おぬしを、この江戸から出すわけにはいかん。
幸村　（声を押し殺して）おめえは、夢を見たいだけだ。死んだ息子に会いたいだけだ。
家康　生きていた。
幸村　……。
家康　正信、利勝、幸村を牢に戻せ。豊臣と片がつくまで外に出してはならん。
正信　はっ。

本多正信、土井利勝、幸村に縄をかけ、出て行く。（下手）

秀忠　人違いではありませぬか？
家康　わしの目を疑うのか？
秀忠　過去を忘れることなど、あるとは思えませぬ。
家康　賭けるか？
秀忠　は？
家康　あの男が過去を取り戻したら、そのときは将軍の座を譲れ。
秀忠　（驚き）ええ！？
家康　冗談じゃ。冗談。あっはっは。
秀忠　……。

服部半蔵、上手から現れる。

半蔵　殿……。
秀忠　（驚いてとびのく）わっ！
半蔵　服部半蔵、ただいま大坂より戻りました。
家康　どうじゃ、具合は？
半蔵　春を過ぎた辺りから、浪人どもが続々と大坂を去っております。
家康　冬の陣からずいぶん経つ。戦はないと信じたのであろう。
半蔵　大坂に残っている浪人は、およそ五万。
家康　ずいぶん減った。わしはこの時を待っていた。
半蔵　頃合は今かと。

家康　秀忠、出陣の触れを出せ。豊臣と最後の戦じゃ。
秀忠　和議の約束は？
家康　和議など初めから守るつもりはない。この国から戦をなくすために、豊臣は滅ぼしておかねばならん。
半蔵　それがし、これより大坂に戻り、豊臣に謀反の疑いありと噂を流します。それを口実に豊臣との和議はなかったことに。
家康　行け。
半蔵　はっ。

半蔵、下手に去る。

秀忠　父上は戦に勝つためなら、手段を選ばぬ。
家康　不満か。
秀忠　いえ。
家康　秀忠、わしは、若い頃から、休むことなく戦をしてきた。だまし合い、殺し合い、落ちつく暇などひとときもなかった。それは、戦に駆り出された武士や百姓も同じじゃ。みな戦に疲れ、生きる喜びを忘れている。わしは、これですべて終わりにしたいのだ。
秀忠　軍勢が大坂につく頃には、蝉も泣いておりましょう。
家康　大坂夏の陣。この戦で、すべてが終わる。

家康、秀忠、退場する。（下手）

江戸城・平川門

真田幸村、上手から、本多正信、土井利勝に連れられて出てくる。
舞台中ほどまで来たとき、上手、下手から人影が現れる。

正信　何奴！
佐助　まったくでけえな、この城は。
幸村　佐助、才蔵！
才蔵　やはりここにおられましたな、幸村殿。
佐助　兄者、助けに来たぜ。
利勝　出合え。出合え。曲者じゃ！
佐助　出合え、出合え、曲者じゃって叫んでも、誰も来ねえよ。
利勝　何！
佐助　（酒ビンを見せて）みんなスヤスヤ眠ってるよ。この時代って、酒ぐらいしか楽しみがないんだよね。（酒を飲む）ウ～イッ！

才蔵　おぬしが飲んでどうする！！
正信　なんなんだ、きさまらは！？
佐助・才蔵　盗人だよ！

佐助、才蔵、二人の首元に刃を付きつける。

佐助　死にたくなかったら、おとなしく消えろ。
正信　この江戸から逃げられると思っておるのか？
才蔵　われらは、草の者。逃げ足だけは、自信がござる。

正信(下手)、利勝(上手)、別々の方向に去る。

佐助　探したぜ、兄者。

佐助、幸村の縄を解く。

幸村　なんで俺がここにいるってわかったんだ。
才蔵　（刀を出して）この刀だけを頼りにやってまいりました。
幸村　宗光。
佐助　その刀はよぉ、俺たちが昔、徳川からかっぱらおうとして、奪えなかった刀なんだ。徳川と兄者には何かあるんじゃねえかと思ってよ。
才蔵　佐助、話しはあとだ。追っ手がやってくるぞ。
幸村　石は。その刀と一緒に石はなかったか。
才蔵　石？
佐助　もしかして、これか？

佐助、幸村に石を渡す。

幸村　それだ！青く光る石、俺の宝物だ。
才蔵　佐助、お前、そんなもの、どうして持ってきたんだ？
佐助　刀かっぱらうとき、近くにこいつが置いてあって、金になるかもしれねえから、しょっぴいて来たんだ。
才蔵　（あきれて）まったく、おぬしという奴は。
佐助　よかったじゃねえか。俺の盗みも兄者の役に立った。

青い石を眺める三人。

才蔵　抜け道がござる。それがしについてきてくだされ。
幸村　うむ。

佐助、才蔵、幸村、下手に駆け去る。（下手）

大坂城・本丸

後藤又兵衛、明石全登、出てくる。（上手）
又兵衛、スコップをかついでいる。

又兵衛　家康め。思ったとおり、裏切りおった。初めから、こうなることはわかっていた。口惜しい。はらわたが煮えくりかえる。
明　石　（手を合わせ）主よ、われらをお守りくだされ。
又兵衛　神頼みなど、もうたくさんだ。そんなことより、早く堀を掘り返せ。徳川が攻めてくるぞ。
明　石　もう手遅れでござる。
又兵衛　わしはあきらめん。最後の最後まであがき通してやる。どけっ！

又兵衛、必死にスコップをふるう。
明石、手を合わせ、目を閉じて祈る。
真田幸村、佐助たちとともに入ってくる。（下手）

幸　村　（背後から）又兵衛……。
又兵衛　（スコップを振るっている）
幸　村　おいっ、又兵衛。
又兵衛　話しかけるな、わしはいま忙しい。
明　石　（気づいて）幸村殿ではありませぬか。
又兵衛　何！ 幸村だと！

又兵衛、振り返る。

又兵衛　きさまあ！ どの面（つら）下げてここに戻ってきた。この裏切り者め！
幸　村　又兵衛、俺と勝負しろ。
又兵衛　何！
幸　村　俺は戦で裏切ったことは一度もねえ！ その口を封じてやる。
又兵衛　おもしろい。裏切り者に天誅を食らわしてやる。

又兵衛、槍を持ち、振り回す。

又兵衛　うおおおおおっ！（構える）

幸村　勝負！！

二人、壮絶な戦い。
お互い互角の勝負をするが、一瞬の隙をついて、又兵衛の槍を幸村がはじきとばす。

又兵衛　幸村、きさまあ！
明石　勝負あった。又兵衛殿、それまでじゃ。
又兵衛　どうして戻ってきた！
幸村　戦は最後までわからねえだろ。
又兵衛　馬鹿か。おぬしは。この城には、堀も城壁もない。あるのは丸裸の本丸だけだ。これでは戦にならん！

又兵衛、槍を拾い、地を叩く。

又兵衛　悪いことは言わん。この大坂から立ち去れ。
幸村　いまさら、退き返せるか！
又兵衛　なぜ、この戦に加わった？
幸村　戦うのが好きなんだ、俺は。
又兵衛　わしも戦は好きだ。だが、好きなだけでは人は刀を持たん。命をかけるだけの価値があるからこそ、人は刀を持ち、戦うのだ。明石殿は信ずる神のため、わしはほころびかけた人生を取り戻すために戦っている。おぬしは何のために戦うんだ？
幸村　俺は俺を取り戻すために戦ってきた。
又兵衛　意味がわからん。
幸村　俺はなあ、昔の自分をすっかり忘れちまったんだ。どこで生まれて、どこで育ったのかちっとも思い出せねえ。
又兵衛　そんな馬鹿な話しがあるか。
幸村　俺の父上は、何もかも忘れてさまよってた俺に名前をくれた。
又兵衛　すべて忘れたのか？
幸村　手がかりは、この刀だけだ。俺は、この刀を握ると不思議となつかしい気分になる。
又兵衛　では、おぬし……
幸村　この刀を振るっていれば、いつか自分を取り戻せるんじゃねえかって、そう思ってずっと戦ってきた。
明石　なぜ、黙っておられた？
幸村　俺は、真田幸村だ。同情なんてしてほしくねえ。
明石　命を落としたら、何もかも消えてしまいますぞ。
幸村　仕方ねえさ。
又兵衛　家康を斬れるか？

幸村　斬るさ。あいつと俺はたまたま出会っただけだ。

佐助、才蔵、飛び込んでくる。（上手）

佐助　兄者――！
才蔵　徳川の軍勢が押し寄せてまいりますぞ。
幸村　家康は、どこだ？
佐助　茶臼山だ。茶臼山に家康の旗が見える。
又兵衛　明石殿、世話になった。
明石　礼を言うのは、それがしでござる。又兵衛殿や幸村殿と出会えて、楽しゅうござった。
又兵衛　狙うは、家康の首、ただ一つ。
明石　戦うわれらに神のご加護があらんことを。
又兵衛　またキリストか。
明石　さらばでござる。
又兵衛　さらばだ。

明石、上手に駆け去る。
又兵衛、幸村と向き合う。

又兵衛　おぬしは天下一の大馬鹿だ。
幸村　最後まで気にくわねえ口を叩きやがる。
又兵衛　おぬしのような大馬鹿に、間者の役目などつとまるわけがない。
幸村　やっと信じたか。
又兵衛　……初めから信じていた。
幸村　……。
又兵衛　わしは戦ばかりして生きてきた。戦に明け暮れ、夢を見ることを忘れていた。おぬしが異国の石に目を輝かせているのを見て、死なすには惜しいと思った。
幸村　又兵衛……。
又兵衛　この戦は初めから負け戦だとわかっていた。でも、わしは武士の意地を貫きたかった。
幸村　俺が主役だ。かっこつけんなよ。
又兵衛　最後ぐらい、俺にもキメさせろ！
幸村　……。
又兵衛　つっこめ！　いつまでもキメてたらかっこ悪いだろ。
幸村　又兵衛、おめえ、最後の最後でキャラが変わってねえか？
又兵衛　ちょっとね。
幸村　やっぱり変わった。
又兵衛　地獄で、また会おう。

幸　村　死ぬつもりか。
又兵衛　槍の又兵衛、死に際は潔くキメていきたい。
幸　村　勝手にしろ。
又兵衛　……さらばだ。
幸　村　さらば。

又兵衛、下手に走り去る。

幸　村　佐助、才蔵、おめえたちは逃げろ。
佐　助　はあ！？
才　蔵　これまで一緒に戦ってきて、その言葉はあんまりでござる。
幸　村　おめえたちは俺に会わなければ、この戦に巻きこまれることはなかったんだ。
佐　助　俺たちは、兄者の強さに惚れて、ついてきたんだぜ。最後まで見届けさせてもらう。
才　蔵　家康の本陣まで、お供いたす。
幸　村　……そうだな。俺一人じゃ、家康の本陣まで身が持たねえや。
佐　助　義兄弟と認めてくれるか？
幸　村　ああ。お前たちの助けが必要だ。

佐助、泣き出す。

才　蔵　泣くな、佐助。
佐　助　だってよぉ……。
幸　村　血はつながっていなくとも、心は一つ。
才　蔵　われら義兄弟。また生きて再会を。
幸　村　いくぞ！

幸村たち、刀を抜く。
音楽。（オープニングと同じ）
東軍の兵士たちが、舞台になだれ込んでくる。
敵を蹴散らす三人。（幸村、佐助、才蔵）

一六一五年・茶臼山

幸村たちが去る。
後ろから大将らしき男が現れる。
大将の名は徳川家康。
家康、刀を抜き、一人の兵士を斬り伏せる。

残った兵士にじりじりと追い詰められる家康。
そのとき半蔵が、飛びこんできて兵士を背後から斬り捨てる。（下手）

半蔵　大殿、これはいったいどういうことじゃ！
家康　（笑って）ははっ、半蔵、わしは久しぶりに人を斬った。
半蔵　喜んでいる場合ではございませぬ！ここはどこもかしこも敵だらけじゃ！！

新たな兵士が半蔵に斬り込んでくる。（上手）
半蔵、一瞬で斬り捨てる。

半蔵　ここはひとまず退却を！
家康　ならぬ。わしはあやつに会うまでは、ここを引かん！
半蔵　何を寝ぼけたことを言っておられる。あやつは、大殿を殺すつもりじゃ。
家康　あの男なら、わしは斬られてもかまわん。
半蔵　殿はよくても、わしはご免じゃ。殿を殺されては、亡き父に申し訳が立たぬ。
家康　わしは動かんぞ。
半蔵　殿！

一際派手な出で立ちをした男が、半蔵の背後を駆け抜ける。（上手）
半蔵、倒れる。

半蔵　き、きさま！

男、間髪置かず、家康に斬りかかる。
家康と男、対峙する。

幸村　よぉ！家康！
家康　やっと、来おったか。
幸村　ずいぶん探したよ。
家康　派手にやりおって。じっとしておればよいものを。
幸村　俺は、じっとしてるのは嫌いなんだ。
家康　いま降伏すれば、命は助ける。ここで無駄死にするな。
幸村　命乞いをするつもりはない！

家康、幸村、刀を交える。

家康　やめろ、幸村。すぐにわしの援軍が来る。豊臣に勝ち目はない。
幸村　やめるわけねえだろ。
家康　すぐに、わしの援軍が来る。
幸村　おめえが死ねば、この戦は終わりだ！
家康　頼む、幸村。わしは、お前を失いたくない。
幸村　俺は、幸村。真田幸村だ！
家康　まだ、信じぬのか！

幸村、渾身の力で家康の刀を払う。
家康、倒れる。
秀忠、鉄砲を持って現れる。（下手）

秀忠　父上！ご無事でございますか！
家康　秀忠、撃ってはならぬ。幸村は生け捕りにいたせ。
秀忠　この戦、負けるわけにはまいりませぬ。
家康　撃つな。撃ったら、きさま、首をはねるぞ。

秀忠、鉄砲を構える。

秀忠　父上の子は、この秀忠でござる。

幸村、刀を振り上げて、家康を斬ろうとする。
鉄砲の音がこだまする。
曲、カットアウト。
幸村、膝をつく。
照明、暗くなり、幸村にスポット。
どこからともなく声が聞こえてくる。

声　『おーい！聞こえるかー！　おーい！聞こえるかー！　俺が総大将の徳川家康だ！　手柄を取りたい奴はここへ来い！　俺が総大将の徳川家康だー！　俺が徳川家康だー！』

声が消える。

幸村　そうか。そうだったのか……。

幸村、軽く微笑んで倒れる。
スポットが消える。

家康　幸村ー！！

暗転。

一六一六年・博多港

海。波の音。
佐助（上手側）と才蔵（下手側）が浜辺に座っている。
佐助、何やら指で落書きをしている。

才蔵　ときが経つのは早いものだ。
佐助　（適当に）ああ。
才蔵　豊臣が滅びて、もう一年。あの、徳川家康も鯛の天ぷらにあたって死んだ。天下人にしては、あっけない最後だ。
佐助　ああ。
才蔵　いまや、幕府に歯向かう者は、誰もいない。この国で、しばらく戦は起きぬ。
佐助　ああ。
才蔵　退屈だとは思わんか。
佐助　ああ。
才蔵　おぬし、さっきから何を書いてるんだ？
佐助　兄者の顔。
才蔵　どれ。

才蔵、立ち上がり、絵を眺める。

才蔵　似てない。子供でももう少し、マシな絵を書くぞ。
佐助　うるせえなあ。ただの落書きにケチつけるんじゃねえ。
才蔵　ここをこうして、あそこをこうして、どうだ、少しは似てるだろ。
佐助　ふけたぞ、なんか。家康みてえだ。
才蔵　……。
佐助　兄者が天下人の血を引いてたなんて、信じられねえや。

一際、大きな波の音。
佐助、才蔵、後ろに転がり飛ぶ。

佐助　あーあ、今の波で全部消えちまった。
才蔵　よかった。よかった。あんな下手な絵を兄者に見られたら、笑われるだけだ。

佐助　次はうまく書いてみせる。
才蔵　書け。書け。好きなだけ書け。下手な絵は波がさらってくれる。

佐助、また絵を書き始める。
侍が上手から現れて、佐助が書いている絵を背後から眺める。

幸村　誰の顔を書いてるんだ？
佐助　兄者の顔。
幸村　俺は、そんなにブサイクじゃねえ！

佐助、才蔵、振り返る。

才蔵　兄者、怪我のほうはいかがでござる？
幸村　もう平気だ。お前たちが介抱してくれたおかげだ。
佐助　（落書きを消しながら）死ぬんじゃねえかと思ったよ。
幸村　ああ、俺も死んだと思った。でも、こいつが俺を守ってくれた。

幸村、懐から、包みを出す。

才蔵　青い石でござるな。
幸村　ああ、こいつを懐に入れていたおかげで俺は助かったんだ。
佐助　それだけじゃねえ。俺たちが、助け出したから、兄者は助かったんだ。
幸村　ああ、お前たちにも感謝してる。
佐助　これから、どうする？
幸村　そうだなあ……。

浜辺を横切る一人の男（下手）。目にサングラスをかけ、どう見ても怪しい。

才蔵　兄者、あの男、どこからどう見ても怪しいとは思いませぬか？
幸村　ああ、怪しい。
佐助　あの眼鏡は変だ。
才蔵　こっちを見てるぞ。

男、近寄ってくる。

明石　もしや、真田幸村殿ではござらんか？
幸村　なんで俺の名前を。
男、サングラスを取る。

明石　明石でござる。キリシタンの明石全登、覚えておられるか？
幸村　生きてたのか、明石殿。
明石　幸村殿こそ、よく生きておられた。
幸村　又兵衛は。又兵衛はどうした？
明石　（正面を向き）…又兵衛殿は、最後の戦で討ち死になされた。槍の又兵衛の名を汚さぬ壮絶な最後でござった。
幸村　そうか。
明石　幸村殿、その袋は？
幸村　ああ、これか。明石殿に借りた青い石だ。
明石　エクセレント！！ さすがは幸村殿じゃ。石を守ってくださると信じていた。
幸村　……。

幸村、明石の手に渡す。
明石、包みの中身を見る。

明石　（頭を抱え）オーマイガット！
幸村　すまねえ。粉々になっちまった。でも、そいつに鉄砲の玉が当たって俺は命拾いした。
明石　（落胆して）……影も形も残っておらぬ。

幸村、頭を深く下げる。

幸村　すまぬ。
明石　顔を上げてくだされ。形あるものはいつか壊れるもの。幸村殿の命が助かったなら、石の一つや二つ、惜しくはない。

明石、幸村の背後にいる佐助と才蔵に気付く。

明石　おお、そなたたちも、よくご無事で。
佐助　その眼鏡は、あやしいぜ。どうしてそんなものかけるんだ？
明石　幕府の落ち武者狩りから身を守るためでござる。正体がばれては、まずい。
幸村　これから、どうするんだ、明石殿は。
明石　この博多から、海を渡る。
幸村　異国へ行くのか？
明石　さよう。
幸村　俺も！ 俺も連れていってくれ！
明石　異国で刀は振るえませぬぞ。
幸村　……いいんだ。俺はもう刀を振るわなくても生きていける。

明石　自分が何者かわかったのでござるか？
幸村　ああ。
明石　それは、よかった。で、正体は？
幸村　……商人のせがれだ。
明石　幸村殿が商人のせがれとは。人は見かけによらぬものでござるな。
幸村　一緒について行ってもいいか？
明石　かまいませぬ。
幸村　本当か！

明石　お二人はどうなさる？
才蔵　それは、もう聞くまでもないこと。
佐助　俺たちはどこまでも兄者についていく。
幸村　こいつらも一緒でいいか？
明石　仲間は一人でも多いほうが楽しゅうござる。

明石、舞台前方に進み出る。

明石　空が青い。船出には絶好の日和でござる。

幸村、明石とともに並び、空を見上げる。

幸村　ああ、ほんとに晴れたいい空だ。

佐助、才蔵、少し前へ出て空を眺める。
青い光が、男たちを包む。
幕。